【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1311A1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　1/3

【年度計画】
（4 館共通）
ア　講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（東京国立博物館）※イ、ウは後述
ア　文化財について分かりやすく理解するための月例講演会・記念講演会・連続講座・ギャラリートーク・教育普及イベント等を継続して実施する。
エ　障がい者や外国人など多様な来館者を対象とした教育普及事業のあり方について検討する。

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育普及室長　藤田千織 教育講座室長　勝木言一郎 ボランティア室長　鈴木みどり

【実績・成果】
（４館共通）
ア　各分野の研究員ならびに特別展のワーキンググループと協力し、精力的に講演会等の文化財理解につながるプログラム開催に取り組んだ。
（東京国立博物館）
ア
・「博物館でお花見を」「博物館でアジアの旅」では、来館経験の少ない人が当館に対して抱きがちな「敷居が高い」というイメージを払拭すべく親しみやすくわかりやすい内容のガイドツアーを企画した。月例講演会やギャラリートークにおいても展示に即した内容のほかに、博物館アーカイブや資料館の活用など、所蔵作品以外のテーマも加え、文化財について多面的に理解を深められるような学習機会を提供した。
ア、エ
・29 年度より、外国人来館者をメインターゲットとした体験型プログラム「日本文化体験」を新規に企画運営した。外部スタッフの協力を得てし、運営を円滑にし、参加者の体験をより豊かにするためスタッフ研修も実施した。参加者の満足度は非常に高く、展示作品に関する関心を高めることにも寄与できた。
エ
・聴覚障がい者がプログラムに参加できるよう、レクチャースペースにヒアリングループを設置し運用を行った。また音声認識アプリ UD トークの導入をするために実証実験を行い、30 年 3 月の「博物館でお花見を」関連事業から正式に運用を開始した。

【補足事項】
（４館共通）ア及び（東京国立博物館）ア
・講演会26回　参加者数6,999人
　内訳　①月例講演会12回、参加者数2,716人　②記念講演会7回、参加者数2,589人
　　③シンポジウム3回、参加者数920人　④テーマ別講演会0回、参加者数0人
　　⑤その他講演会4回、参加者数774人
・列品解説（ギャラリートーク等）96回、参加者総数14,026人
　内訳　①ギャラリートーク53回、参加者総数6,074人
　　②特別展関連ギャラリートーク21回、参加者総数7,102人
　　③東京藝術大学大学院インターンシップによるギャラリートーク22回、参加者総数850人
・連続講座1回（2日間）参加者総数551人
・公開講座2回、参加者総数116人
・その他展示に関連する事業74回、参加者総数7,701人
（東京国立博物館）
エ
日本文化体験「書体験」　42回(42日間)、参加者数5,838人（うち外国人3,571人）
日本文化体験「きもの体験」　17回(17日間)、参加者数529人（うち外国人419人）
日本文化体験「十二単着付け実演」　2回(1日間)　712人　英語通訳実施
日本文化体験「トーハク能　嵐山」　1回(1日間)　307人　英語通訳実施

月例講演会

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
講演会等の開催回数	199回	128回	A		131	127	146	160
講演会等の参加者数	29,393人	-	-		15,777	14,419	18,080	21,453

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 今年度は新たに日本文化体験プログラムが実施され、講演会等の開催回数および参加者数のいずれも目標値を上回った。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 「上野の山でキジめぐり」「博物館でアジアの旅スペシャルツアー」「トークサロン」「日本文化体験」など、さまざまな形式で講演会、ギャラリートーク、ワークショップ等を順調に開催した。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1311A2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　2/3

【年度計画】
（東京国立博物館）
イ　日本の歴史・文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図るための教育普及の先導的事業を実施する。本館地下、19 室のみどりのライオン、東洋館 2 室、6 室のオアシス等を教育普及スペースと位置づけ、さらに、大講堂、小講堂やミュージアムシアター等も活用し、対象と内容に応じた事業を展開する。
(ア)ファミリー向け教育普及的展示企画「親と子のギャラリー」の実施
・特集「親と子のギャラリー　トーハクでバードウォッチング―キジやクジャク、鳳凰が勢ぞろい」（4 月 25 日～6 月 4 日）
・特集「親と子のギャラリー　びょうぶとあそぶ」（7 月 4 日～9 月 3 日）
(イ)総合文化展の活性化を目的とした総合イベント「博物館でお花見を」(3 月 14 日～4 月 9 日)、「博物館でアジアの旅」(9 月 5 日～10 月 15 日)、「博物館に初もうで」(30 年 1 月 2 日～1 月 28 日)において、講演会、ギャラリートーク、体験型プログラム等の教育普及事業を実施する。
(ウ)体験型プログラムの実施
・特集「親と子のギャラリー」ほか、総合文化展（平常展）に関連した一般向け及びファミリー向け体験型プログラムを実施する。
・本館 19 室・本館地下みどりのライオン・東洋館オアシスで展開する教育普及スペースで、ワークショップやハンズオンアクティビティなどの体験型プログラムを実施する。

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育普及室長　藤田千織 教育講座室長　勝木言一郎

【実績・成果】
（東京国立博物館）
イ　総合文化展を中心とした展示や、作品に関連したプログラム等を通じ、来館者の鑑賞体験を深め、歴史・文化の理解促進や伝統文化への興味関心を高めることを目的とした教育普及事業を展開した。
(ア)特集「親と子のギャラリー　トーハクでバードウォッチング―キジやクジャク、鳳凰が勢ぞろい」では、キジ科の鳥をテーマにした文化財ならびに、国立科学博物館、恩賜上野動物園から借用した資料を展示するとともに、3館園をめぐるツアーを開催し、キジ科の鳥の文化史や生態に対する理解を深めた。
特集「親と子のギャラリー　びょうぶとあそぶ」では、屏風の高精細複製を用い、畳に座ってガラスケースなしで見るという屏風本来の鑑賞環境を実現、作品世界を伝えるための映像や音楽をあらたに制作して提供するなど、博物館における日本美術の新しい鑑賞方法を提案した。また、ワークシート、ハンズオンプログラムやイベントを通じ、来館者の体験と理解をさらに深めることを目指した。
(イ)講演会、ギャラリートーク、ガイドツアー及び、ぬりえ、ヨガなどの体験型プログラム、伝統芸能公演などの文化イベントを実施し、総合文化展の活性化に寄与した。
(ウ)本館19室では伝統模様のスタンプを使った体験型プログラム、作品の工程見本の展示、IT技術を使って作品を知る体験コーナーを、東洋館オアシスではアジアの文化を知る体験コーナーを、平成館考古展示室ではレプリカを用いたハンズオンコーナーを継続運営した。本館地下、東洋館オアシスやシアターでは各種体験型プログラム、ギャラリートーク等を実施した。

【補足事項】
・「びょうぶとあそぶ」ではワークシート20,000部を配布。ワークショップ「びょうぶをつくる」（2回44人）、ダンスパフォーマンス「びょうぶとおどる」（6回1,150人）を実施した。
・体験型プログラムとして、本館19室および東洋館でのハンズオン展示(585回、177,837人)、ワークショップ(25回10,882人)、親と子のギャラリー(92回、82,966人※「92回」は2企画の合計、人数は「びょうぶ」のみカウント)を実施した。
・夏休み期間の7月30日に総合文化展(本館、考古展示室)で、子どもとその保護者のためのイベント「キッズデー」を開催し、未就学児、小中生合計1,182名が参加した。
・「博物館でお花見を」では「花見で一句」として俳句を募り375の応募のうち一般の部6句、小学生以下の部2句が入選した。

「親と子のギャラリー　びょうぶとあそぶ」会場の様子

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
体験型プログラム等実施回数	703回	-	-		-	-	1,042	827
体験型プログラム等参加者数	272,867人	-	-		-	-	198,393	199,167

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 体験型プログラムを703回実施、272,867人が参加し、年度計画を順調に達成している。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に沿って順調に、講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供している。これまでの経験を生かしてより充実した事業を目指したい。

【書式Ａ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1311A3

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　3/3

【年度計画】
（東京国立博物館）
ウ　学校との連携事業を推進する。
・スクールプログラム（鑑賞支援・体験型プログラム等）を継続して実施する（小・中・高校生対象）。
・職場体験の受け入れを継続して行う（中・高校生対象）。
・教員を対象とした研修等を継続して実施する。

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育普及室長　藤田千織 ボランティア室長　鈴木みどり

【実績・成果】
ウ　29年度も学校との連携事業を計画通り実施した。スクールプログラムは学年、人数、目的に応じた15のコースを設け、パンフレット、ウェブサイトで告知し、ウェブサイト、ファックスで申込を受け付けた。児童・生徒の鑑賞体験の充実に寄与し、伝統文化への関心を高め、理解を促した。

【補足事項】
ウ　スクールプログラム　270校10,045人（小学校44校2,042人、中学校159校5,538人、高校67校2,465人）
　盲学校のためのスクールプログラム　3校11人
　職場体験　　20校　63人
　教員研修　　6回 513人

スクールプログラム実施風景

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
スクールプログラム実施回数	273回	-	-		-	-	211	227
スクールプログラム参加者数	10,056人	-	-		-	-	8,261	7,910
職場体験実施回数	20回	-	-		-	-	19	19
職場体験参加者数	63人	-	-		-	-	60	63
教員を対象とした研修実施回数	6回	-	-		-	-	6	6
教員を対象とした研修参加者数	513人	-	-		-	-	585	235
印刷物	37,000部	-	-		-	-	42,000	30,000

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 273回のスクールプログラム、20回の職場体験の受入れ、6回の教員を対象とした研修など学校との連携事業を順調に実施し、年度計画を達成している。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 学校等との連携の下、スクールプログラム、職場体験などの学習機会の提供を行い、中期計画に則り順調に取り組んでいる。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1311B1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　1/2

【年度計画】
（４館共通）
ア　講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（京都国立博物館）
ア　歴史や文化についてわかりやすく理解してもらうため、講演会・土曜講座・夏期講座等を継続して実施する。

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　永島明子

【実績・成果】
（４館共通）
ア　京都国立博物館においては、32回の講演会等を開催した。
(京都国立博物館)
ア
・「記念講演会」(4月22日、講師：小説家　葉室麟氏、学芸部長　山本英男)ほか、(4回・800人)を実施した。
・「土曜講座」(6月17日、講師：東京国立博物館　主任研究員　末兼俊彦)ほか、(22回・2,433人)を実施した。
・「夏期講座(名品を旅するⅡ)」(7月27日～28日、講師：東京大学文学部教授　佐藤康宏氏　ほか5名)(1回・212人)を実施した。
・「社会科教員のための向上講座」(8月29日、講師：研究員　水谷亜希)（1回・49人）を実施した。
・記念座談会「日本美術応援団、海北友松を応援する！！」（4月15日、明治学院大学教授　山下裕二氏、俳優　井浦新氏、学芸部長　山本英男）（1回・200人）を実施した。
・研究発表と座談会「平安時代後期を中心とした絵師の工房をめぐる諸問題」（1回・93人）を実施した。
・国際博物館の日シンポジウム「ICOM京都大会に向けて」（1回・140人）を実施した。
・「イギリスにおける最新文化動向とオリンピック文化プログラム」講演会・ワークショップ（1回・87人）を実施した。

【補足事項】
(京都国立博物館)
ア
・特別展期間中の講座を「記念講演会」として4回実施した。
・土曜講座は昭和48年(1973)から開始し、29年度末で1,870回を数える歴史ある普及活動で、参加者から高い評価を得ている。
・ICOM京都大会に向けての講演会等も開催した。詳細は処理番号1430Bを参照。

3 月 17 日土曜講座
「狩野派をめぐる 30 年」

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
講演会等の開催回数	32回	26回	A		21	36	39	45
講演会等の参加者数	4,014人	-	-		2,062	4,596	4,845	5,132

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	特別展覧会「国宝」期間中の記念講演会は混雑が予想されたため、通常の当日整理券配布方式ではなく事前申込制とすることで、200 人の参加者が混乱なく受講することができた。その他の記念講演会もいずれも満席（200 人）であった。 土曜講座は、館内外の専門家（22人）を講師として、年度計画どおりに事業を実施できた。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を順調に行うことができた。また、数年前より継続してきた「社会科教員のための向上講座」は、リピーターも多く教員に定着しており、29年度は「名品ギャラリー」の学校現場での活用について教員の積極的な議論が見られた。次年度以降も継続してこれらの事業を実施し、内容の充実につとめる。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1311B2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　2/2

【年度計画】
（京都国立博物館）
イ　京文化を核としながら、日本及び東洋の歴史・文化に対する理解促進を図るために教育普及事業を実施する。
・展覧会鑑賞ガイド・ワークシート（小中学生向けを含む）などを発行する。
・「博物館くらぶ」や京博ナビゲーターによるミニワークショップなど、文化財への一般の関心を高める体験型イベントを実施する。
・分かりやすい展示作品解説シート「博物館ディクショナリー」を発行し配信する。
・ハンズオン教材を設置し、京博ナビゲーターが常駐する「ミュージアム・カート」を展開する。
ウ　教育諸機関等との連携事業を推進する。
・京都市内の小中学生を対象とする訪問授業「文化財に親しむ授業」を実施する。
・京都市内４美術館・博物館（京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都文化博物館、京都市美術館）で組織する「京都市内４館連携協力協議会」での連携協力を図る。
・教員のための講座を開講する。
・他の博物館や教育諸機関と協力した教育普及事業を実施する。

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　永島明子

【実績・成果】
（京都国立博物館）
イ
・「鑑賞ガイド」（「トラりんと見てみよう！どんなおさかないるのかな？」（7,000部）、「今日から君も獅子と狛犬博士」（64,000部、日・英・中・韓）を発行した。
・ワークショップ「描いてみよう！墨の線」（36回・11,508人）を実施した。
・「博物館Dictionary」(10回、45,000部)を発行した。
・「さわって発見！　ミュージアム・カート」（173回、概算225,809人参加）を実施した。
ウ
・「文化財に親しむ授業」(7回・626人)、「おしゃべり鑑賞会」（3回・29人）を実施した。
・「京都市内4館連携協力協議会」の連携協力として、土曜講座のうち１回を京都ミュージアムズ・フォー連携講座「美術の中の水のいきもの」（1回・75人）として実施した。
・「社会科教員のための向上講座」(1回・49人)、「文化財を教室に！－複製を活用した事例紹介と交流会―」（1回・13人）、「大阪府高等学校美術工芸教育研究会」(1回・30人)を実施した。
・京都水族館と協力し、特集展示「京博すいぞくかん―どんなおさかないるのかな？―」（1回・40,911人）と、関連するイベント（7回・154人）を実施した。
・スクールプログラム、来館学校団体等への対応（9回・93人）を行った。
・東日本復興支援の「こども☆ひかりプロジェクト」(1回・120人)に参加した。
・「京の伝統文化と子供モノづくり体験」（1回・2,160人）に協力した。
・「世界キャラクターさみっとin羽生」にプログラム（2回・357人）を出展した。

「京博すいぞくかん」
ギャラリートーク

【補足事項】
・京博初めての子ども向け特集展示「京博すいぞくかん―どんなおさかないるのかな？―」を実施し、40,911人の来館者があった。
・京都洛東ロータリークラブと協力し、館内にて「京の伝統文化と子供モノづくり体験」を実施、2,160人の参加があった。
・博物館Dictionaryのうち、特別展覧会中に配付した198号（仏像は何からつくられているの？）は好評のため25,000部を増刷した。

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定		25	26	27	28
体験型プログラム等実施回数※	467回	-	-	経年変化	-	-	268	553
体験型プログラム等参加者数	282,014人	-	-		-	-	16,200	21,333
スクールプログラム実施回数	9回	-	-		-	-	10	7
スクールプログラム参加者数	93人	-	-		-	-	378	344
文化財ソムリエによる訪問授業実施回数	7回	-	-		-	-	7	7
文化財ソムリエによる訪問授業参加者数	626人	-	-		-	-	658	931
教員を対象とした研修実施回数	3回	-	-		-	-	12	3
教員を対象とした研修参加者数	92人	-	-		-	-	1,080	106
印刷物	116,000部	-	-		-	-	70,000	41,300

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｓ

【判定根拠、課題と対応】
年度計画に基づいた教育普及事業に加え、今年度は夏休み時期に当館では初めて「子ども向け」と銘打った特集展示「京博すいぞくかん―どんなおさかないるのかな？―」（40,911人）、「京の伝統文化と子供モノづくり体験」（2,160人）を実施し、28年度同時期に比べて約2倍もの子どもの来館者があったことは著しい成果であった。新聞等に取り上げられ、効果的な広報につながったこともあり、多くの子どもに向けて教育普及活動を展開することができた。また、教育普及に関する調査研究という面でも良い事例とすることができた。【処理番号1411B9-2も参照】

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：Ａ

【判定根拠、課題と対応】
通常のプログラムに加え、展示そのものを子供向けに実施したことは中期計画を超える大きな成果であった。また、それに伴い通常よりも大きな形で学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との協力し、事業を実施できたことも顕著な成果と言える。今後も今回構築した関係を活かしながら、事業を継続し、内容の充実を図りたい。

※平成28年度より、一定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1311C1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　1/2

【年度計画】
（４館共通）
ア　講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（奈良国立博物館）
ア　講座等の開催
・仏教美術等に関するサンデートークを定期的に実施する。
・特別展等に際してシンポジウム、フォーラム及び公開講座等を開催する。
・一般向け教育普及事業として夏季講座を開催する。
・特別陳列に因み、伝統的行事を体験する催しを実施する。
・文化財保存修理所の一般公開を行い、文化財保存の意義についての認知度向上に努める。
・展覧会において親子を対象とした講座やワークショップを実施する。

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　谷口耕生

【実績・成果】
（４館共通）
ア　29年度は講演会等を26回実施した。
（奈良国立博物館）
ア　講座等の開催
・サンデートークは毎月第3日曜日に12回実施。計771人の参加があり、アンケート結果で平均満足度87％を得た。
・公開講座は3つの特別展及び3つの特別陳列の会期中に13回実施。計2,141人の参加があり、平均満足度91％を得た。「正倉院学術シンポジウム2017　正倉院の色」を11月3日に実施。224人の参加があり、平均満足度96％を得た。
・夏季講座は「地獄・極楽と浄土信仰の美術」と題し、奈良県文化会館を会場に8月23日～25日の3日間実施。講師は8人、525人の参加があった。
・特別陳列「お水取り」では、東大寺の協力のもと、『お水取り「講話」と「粥」の会』を30年2月10日に実施し、32人の参加があった。
・文化財保存修理所の特別公開を30年1月25日に3回実施し、計119人の参加があった。
・第69回正倉院展では、10月29日に「親子鑑賞会」を実施し、117人の参加があった。

【補足事項】

夏季講座「地獄・極楽と浄土信仰の美術」会場風景

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
講演会等の開催回数	26回	28回	C		26	27	28	26
講演会等の参加者数	3,437人	-	-		3,219	3,525	3,974	3,518

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	講演会等の開催回数が目標値を2回下まわったが、ほぼ当初の予定通り各種の講座及び講演会を実施することができ、シンポジウム等の募集にインターネット予約のシステムを新たに導入した結果、例年どおり多数の参加者数を得ることができた。さらに前年を上回るアンケートにみる満足度も高かったことから左記の評定とした。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	特別展等に関連した公開講座、当館研究員の多彩なテーマによるサンデートーク、小学生等を対象としたワークショップ・親子講座を開催し、特に公開講座は高い満足度を達成でき、仏教美術のコアなファンから初心者の方まで各々に応じた学習機会を提供できた。また『お水取り「講話」と「粥」の会』では東大寺の協力により歴史・伝統文化に触れられる機会を提供することができ、中期計画は順調に進んでいる。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1311C2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　2/2

【年度計画】
（奈良国立博物館）
イ　小中学校との連携
・奈良県内の小中学校にメールマガジンを配信する。
・奈良市内の公私立小中学校に博物館だよりを送付する。
・世界遺産学習を小学校高学年を中心に実施する。
・中学生の職場体験学習を受け入れる。
ウ　奈良市教育委員会及び奈良教育大学と連携してＥＳＤ(持続発展教育)プログラムの開発を引き続き行う。
エ　地下回廊の学習端末機で名品のハイビジョン映像等を引き続き公開する。
オ　地下回廊で仏像模型及びパネルを用いて、文化財に関する情報を引き続き公開する。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　室溪浩

【実績・成果】
（奈良国立博物館）
イ
・奈良県内の小中学校に対してメールマガジンの配信を行った。
・季刊誌『奈良国立博物館だより』（年4回発行）を奈良市内の全小中学校（77校）に配布した。
　正倉院展において展覧会割引券を奈良市立の小中学校（65校）に配布した。
・世界遺産学習事業を、奈良市内の公立小学校5年生（32校2,022人）に対して実施した。
・中学生の職場体験で3校6人（2年生）を受け入れた。
ウ
・奈良市教育委員会との連携事業による世界遺産学習の一環として、仏像館見学や仏像クイズを通じて地域の文化遺産について親子で学ぶＥＳＤプログラム「親子で学ぼう博物館」を7月26日・27日に実施した。
・1000年忌特別展「源信　地獄極楽の扉」に関連した事業として、親子ワークショップ「つくってわかる！立体地獄絵」を奈良教育大学との連携事業として7月30日に実施した。
エ　地下回廊のタッチパネル式学習端末機で、収蔵品の中から名品の画像を公開した。
オ　地下回廊で仏像模型や解説パネルを用いて、文化財に関する情報を充実させた。

【補足事項】

奈良市教育委員会との連携事業「親子で学ぼう博物館」

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定		25	26	27	28
体験型プログラム等実施回数※	26回	-	-	経年変化	-	-	23	21
体験型プログラム等参加者数	399人	-	-		-	-	380	384
スクールプログラム実施回数	20回	-	-		-	-	8	24
スクールプログラム参加者数	1,001人	-	-		-	-	390	1,701
職場体験実施回数	3回	-	-		-	-	4	3
職場体験参加者数	6人	-	-		-	-	9	7
世界遺産学習実施学校数	32校	-	-		-	-	37	25
世界遺産学習参加者数	2,022人	-	-		-	-	2,440	1,542
音声ガイド	1,010台	-	-		-	-	816	770

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 29年度は、28年度から奈良市教育委員会とともに準備をしてきたＥＳＤプログラムを実施し、奈良の文化遺産についての学習機会を提供することができた。 また、奈良教育大学との連携事業を行い、展覧会のテーマにより親しむことができるプログラムを参加者に提供することができた。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 29年度は、地元教育委員会と連携して地域の文化遺産を学ぶプログラムや、地元教育大学と連携して、親子向けのワークショップを実施することができ、中期計画は順調に進んでいる。

※平成28年度より、一定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1311D1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　1/3

【年度計画】
（４館共通）
ア　講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（九州国立博物館）
ア　特別展記念講演会を開催する。
イ　シンポジウムを開催する。
ウ　ミュージアムトークを継続的に実施する。
カ　文化交流展（平常展）に関連した教育普及事業を実施する。
　・潜在的利用者獲得のための活動「きゅーはく女子考古部」を実施する。
キ　特別展に関連した教育普及事業を実施する。
ク　文化施設等へ講師を派遣する。

担当部課	学芸部企画課 交流課	事業責任者	課長（兼学芸部長）　小泉惠英 課長　吉川利幸

【実績・成果】
ア　講演会を28回、うち特別展記念講演会を2回開催した。全国各地の高校生による歴史学研究の成果を対外的に発信する場として「全国高等学校歴史学フォーラム2017」を開催し、パネルセッション・ワークショップを実施するとともに、参加生徒相互の交流を促進した。
イ　シンポジウム「水中遺産の多様性－縄文から龍馬までー」等、シンポジウムを5回開催した。
ウ　展示物への理解をさらに深めるためにミュージアムトークを定期的に行った。（合計：56回）
　8月からは、夜のミュージアムトーク（毎月第2,4土曜日）を開始し、夜間開館のイベントとして定着しつつある。ハンズオンの資料を使った内容となっているため、様々な年齢層に親しみやすく、ファミリー層の参加が増加した。（参加人数：昼1,615人　夜529人　合計2,144人）
カ　文化交流展（平常展）に関連した教育普及事業として、潜在的利用者獲得のための活動「きゅーはく女子考古部」を実施した。
キ　特別展で、わかりやすい解説パネルや体験コーナーを設置し、ワークショップを開催した。また、ナイトミュージアムなどのイベントも実施した。
ク　アクロス福岡、筑紫野歴史博物館等、地域の施設へ講師を派遣した。

【補足事項】
カ　今年で3年目のきゅーはく女子考古部は、募集定員20人に対し90人の応募があったため定員を28人に増やして実施した。毎月1回考古学に関する活動を実施、9月から1月までは部員の自主企画による活動とし、古代染め、古代食作り、古墳巡り、石器作り、骨角器作りなどを行った。また、3月には活動成果の発表として、一般の人を対象としたイベント「古代の宴へようこそ！」を実施した。また、他自治体とのコラボ企画として「大野城大文字まつり」（大野城市）と「ひろかわ古墳まつり」（福岡県八女郡広川町）でのワークショップと貫頭衣ファッションショーを行い、トークセッション「おいしくいただく考古学」（福岡市博物館主催）にコメンテーターとして参加した。さらに、活動を記録した冊子「女子的考古学のススメ」を作成し、「古代の宴へようこそ！」の参加者及び考古関係機関に配布した。

きゅーはく女子考古部での古代食作り

キ　29年度は「タイ　～仏の国の輝き～」、「世界遺産　ラスコー展」展の2つの特別展において、教育普及プログラムを実施した。それぞれの特別展で展覧会の内容や来館者層に即したわかりやすい解説パネルと体験コーナーを設置した。「世界遺産　ラスコー展」では、夜間開館にあわせてクロマニョン人に扮した劇団員が展示物の使い方や当時の生活を架空のクロマニョン語で説明するイベント「クロマニョン人現る!!」を実施した。

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
講演会等の開催回数	84回	90回	C		90	82	87	77
講演会等の参加者数	6,299人	-	-		7,267	4,694	6,212	5,369

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 さまざまな来館者を対象にした多岐にわたる教育普及事業を実施し、アンケートの結果からも高い評価を得た。講演会の開催回数も、28年度より7件増加した。また、体験型のイベントを充実させたことにより、参加者からの満足度は高い。 30年度は講演会回数を増やせるよう、計画的に企画を行いたい。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 28年度に続き、ワークショップなど体験型を重視したおもしろく、わかりやすい教育普及を開催することができ、中期計画2年目として事業を達成できた。講演会回数については28年度より増加しており、30年度は開催回数が目標値を上回るよう計画的に企画を行いたい。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1311D2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　2/3

【年度計画】
（九州国立博物館）
エ　博物館における体験型事業の充実を図る。
・教育普及ゾーンで活用する様々な教育キットを開発する。
・幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供する。
・アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムを開発する。

担当部課	交流課	事業責任者	課長　吉川利幸

【実績・成果】
（九州国立博物館）
エ
・「なりきり学芸員体験」「なりきり考古学者体験」「なりきり文化財カメラマン体験」「ガムランワークショップ」「行こうよ！あじっぱ夏祭り」等の各種ワークショップを館内で実施したほか、「きゅーはくきゃらばん」と名付けた教育普及活動を継続的に行い、幅広い層に向けて教育活動の機会を提供した。
・体験型展示室「あじっぱ」において、アジア諸国の文化を紹介するとともに、アジア諸国の文化の類似性や相違性について理解を深める体験学習プログラムを行った。また体験資料であるＢＯＸキットを新たに開発するとともに、新規に収集したチベット資料の展示・紹介を行った。

【補足事項】
・教育普及活動「きゅーはくきゃらばん」を18回実施。当館の体験プログラムを基本に、新規開発したプログラムを提供した。県内では県立少年自然の家「玄海の家」や県立社会教育総合センター、九州芸文館、遠方では被災地支援のため、福島県、宮城県、熊本県などでワークショップを実施した。南相馬市では、韓国のチマ・チョゴリやタイのアオザイなどアジア各国の衣装を利用した衣装体験のワークショップを行い、多くの子ども達に楽しんでもらった。
・公開型ワークショップである「行こうよ！あじっぱ夏祭り」は、2日間でのべ1,130人が参加。「タングラムであそぼう」「チマ・チョゴリを作ろう、着てみよう」「せかいの“コマ”であそぼう」「民族衣装をぬってみよう」の4つのワークショップを提供した。

「玄海の家」での衣装体験の様子

・体験学習プログラムを3件開発した。（「世界の楽器を弾いてみよう」「タイ～微笑の国～」「オランダの遊び」）
・あじっぱ入口横ディスプレイでは2回の特集展示を実施した。（「タイの生活」「チベットの魅力」）
・「きゅーはく　夜のどうくつ探検」のタイトルで、特別展「ラスコー展」とリンクしたナイトミュージアムを実施した。県内外から多くの参加者があり、大変評判の良い企画となった。30年度は、文化交流展示室でのナイトミュージアムを企画・運営していきたい。

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
体験型プログラム等実施回数※	2,041回	-	-		-	-	639	2,143
体験型プログラム等参加者数	8,651人	-	-		-	-	8,860	7,796

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 ナイトミュージアムは教育普及に力を入れている「九博らしい」企画であり、今後の体験型事業の目玉となりうるコンテンツである。今後は、特別展だけでなく、文化交流展示室と絡めながら内容の充実を図り、継続的な実施を模索したい。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 体験型展示室「あじっぱ」のコンテンツを利用したワークショップを行う「きゅーはくきゃらばん」を28年度から3回増加して18回実施し、県内外の多くの子ども達に学習機会を提供することができた。またアウトリーチ活動を通じて、兵庫県立人と自然の博物館や京都国立博物館、熊本県立装飾古墳館や南相馬市博物館など他博物館との連携協力を推進し、今中期計画期間の2年目として順調に事業を実施できた。今後も他館との連携協力を図りながら、県内外の多くの子ども達に学習機会を提供したい。

※28年度より、一定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1311D3

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　3/3

【年度計画】
（九州国立博物館）
オ　学校教育との連携事業を実施する。
・職場体験（中学生）の受け入れを実施する。
・ジュニア学芸員(高校生)事業を実施する。
・博物館活用の促進を図るため、教員研修の場を設置する。
・学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出しを実施する。
・福岡県教育委員会及び（公財）九州国立博物館振興財団と連携して、小中学校を招き、様々な学習プログラムを体験させる学校教育活動支援事業を実施する。

担当部課	交流課	事業責任者	課長　吉川利幸

【実績・成果】
(九州国立博物館)
オ
・職場体験（中学生）を20校92人（のべ38日間）受け入れた。
・高校生を対象としたジュニア学芸員体験事業を30年2月25日、30年3月4日、30年3月11日の3日間・全4回講座で実施し、10校・16人が参加し、なりきり学芸員体験、ワークショップ体験、子どもフェスタ接客体験などを受講した。
・県内の小･中・特別支援学校の教員向け研修会を2回実施。その他、高等学校教員初任者研修・経験10年経過研修を2回行った。
・学校貸出キット「きゅうぱっく」は、33件・54パックの貸出しを行った。
・出前授業や館内での体験等を希望する学校への個別対応を6件行った。
・学校教育活動支援事業（スクールプログラム）は、27校、1,612人の児童、生徒に対して実施した。

【補足事項】
・展示室や研究員と教室をスカイプの映像で直接つなぐ通信授業を実施した(富山県の中学校1･3年生を対象に4回)。

ジュニア学芸員体験の様子

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定		25	26	27	28
スクールプログラム実施回数	27校	-	-	経年変化	-	-	13	18
スクールプログラム参加者数	1,612人	-	-		-	-	1,251	625
出前講座実施回数	6回	-	-		-	-	6	6
出前講座参加者数	104人	-	-		-	-	370	179
職場体験等の実施回数	20校	-	-		-	-	32	17
職場体験等の参加者数	92人	-	-		-	-	117	87
教員を対象とした研修実施回数	4回	-	-		-	-	12	4
教員を対象とした研修参加者数	25人	-	-		-	-	167	73
「きゅうぱっく」貸出件数	33件	-	-		-	-	47	47
印刷物	ー部	-	-		-	-	175,000	145,000

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 職場体験(20校、92人参加)、教員研修(4回実施)、放送大学等（受講者数40人）について、事前に担当者と内容検討を行い、計画通りに実施できた。夏休み期間を利用することで、遠方の中学校にも職場体験を行うことができた。今後さらに内容の充実を図っていく。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 29年度よりスクールプログラム事業の本格的導入を行い、27校が参加した。また、子ども向けミュージアムトークも導入し、職場体験、教員研修、放送大学の授業等についても計画通りに実施できた。学校教育との連携をさらに推進することができた。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1312A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
（東京国立博物館）
ア　館内案内、各種事業の補助活動等の充実を図る。
イ　点字パンフレット、触知図、盲学校対応プログラム等による視覚障がい者対応、手話やコミュニケーションボード等による聴覚障がい者への博物館案内等、バリアフリー活動を実施する。
ウ　自主企画グループによる各種ガイドツアー等を継続して実施する。
エ　スクールプログラムの一部をボランティアにより実施する。
オ　ボランティアデーなど、ボランティアの企画立案によるプログラムの充実を図る。

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	ボランティア室長　鈴木みどり

【実績・成果】
（東京国立博物館）
ア　外国人来館者の増加にあわせ、英語研修をおこない、来館者対応のレベル向上を図った。
　また、29年度から始まった「日本文化体験」の補助活動のための研修を全ボランティアに行うなど、研修を充実させた。
イ　盲学校対応等に加え、聴覚障がい者対応のためのUDトークの実証実験にボランティアが参加した。
ウ　自主企画グループ16グループを継続して実施した。
エ　スクールプログラム「はじめての東博」を引き続きボランティアが実施した。
オ　ボランティアデー、キッズデー、博物館でアジアの旅、留学生の日、博物館でお花見をについて、ボランティアの企画立案によるプログラムを実施した。

【補足事項】
ア　ボランティアに対する研修を行った。（65回、解説会4回）
ウ　自主企画グループのうち「陶磁ガイド」グループがメンバー不足のため、4月～7月まで休止し、8月から復帰した。以降、安定した運営を行っている。総ガイド回数361回、参加人数14,773人

「日本文化体験」での外国人来館者の対応の様子

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
ボランティアの受入人数	151人	-	-		169	173	173	169

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 増加する外国人来館者を対象とする接客や、プログラムのための研修を行い、その結果、ボランティアの意識を高め、質的向上を図ることができた。また、研修の機会を増やし、各活動のスムーズな運営を図った。 自主企画グループではリーダー会議を年 6 回開催した。また、職員が各ガイド原稿の校正、ガイドの指導を行うなど、自主性を活かしながらも当館のボランティア活動の方向性に沿うよう努めた。

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 活動内容に応じた研修を適宜行い、ボランティアの育成と活動支援を行った。 また、各種事業の補助活動、自主企画グループによるガイドツアーなどもあわせ、来館者への教育普及活動の充実、来館者サービスの向上、生涯学習活動に寄与した。 特に、増加している外国人来館者のための活動は、国内外への日本文化紹介につながった。 今後もボランティアの自主性や創造性を生かしながら、活動を充実させていきたい。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1312B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
（京都国立博物館）
ア　教育普及補助ボランティア（京博ナビゲーター）活動の充実を図る。
イ　調査・研究支援ボランティアを受け入れ、各種事業活動の充実を進める。
ウ　文化財に親しむ授業講師（文化財ソムリエ）として大学生・大学院生ボランティアを育成し、小中学校への訪問授業を実施する。
エ「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用する。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　數馬厚人 教育室長　永島明子

【実績・成果】
（京都国立博物館）
ア
・第2期京博ナビゲーターの受け入れのため、説明会（4回）、面談（6回）、基礎講座（8回）を実施した。
・第1期京博ナビゲーターに向けて「卒業式」（1回）を実施した。
・ワークショップ実施のため、京博ナビゲーターを対象とした研修会（6回）を実施した。
・京博ナビゲーター（208人）が下記の活動を行った。
　①平成知新館内のミュージアム・カートやレファレンス・コーナーにおける活動（通常活動、173日）
　②特別展覧会「海北友松」ワークショップ「描いてみよう！墨の線」（36日、11,508人参加）
　③特別展覧会「国宝」関連　特別版ミュージアム・カート「金印」「桜ヶ丘銅鐸」ほか（48日、概算189,000人）
イ
・収蔵品調査及び社寺調査の補助のため、調査・研究支援ボランティアを受け入れた。（29人）
ウ
・文化財ソムリエを対象としたスクーリングを実施した。(21回)
・文化財ソムリエ（18人）が以下の活動を行った
　①京都市内の小中学校への訪問授業(7回)
　②京都市中学校総合文化祭における「おしゃべり鑑賞会」（1回）
　③「ミュージアムキッズフェアinみなみそうま2017」への参加（1回）
エ
・「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用した。（15人）

ミュージアム・カートの様子

【補足事項】
ア　京博ナビゲーターは、それぞれ月1回程度来館し、平成知新館内のミュージアム・カートやレファレンス・コーナーにて活動を行っている。ミュージアム・カートでは、玉眼模型や銅鐸複製などのハンズオン教材に触れることができ、来館者アンケートやナビゲーターへの声掛けでも大変好評なコメントが集まっている。
イ　各研究員の指導のもと、調査・研究支援ボランティアが収蔵品調査及び社寺調査の補助を行った。
ウ　文化財ソムリエとして登録している大学生・大学院生のボランティア（18名）に対して、当館研究員がスクーリング21回を実施。文化財や教育普及の手法についてレクチャーを行い、授業案や教材を作成する際には議論を促し、指導・助言を行った。29年度も「平成29年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」の助成を受け、小中学校への訪問授業だけでなく、教員との交流会、学校への複製貸出・助言、他館活動の調査なども精力的に行った。

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
ボランティアの受入人数	270人	-	-		45	210	214	215

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 年度計画に基づき、教育普及補助活動の充実を図ることができた。29年度中に第1期京博ナビゲーターが任期満了となったことから、第2期受入準備を進め、1期を超える人数を受入れることが出来た。また、任期を満了した京博ナビゲーターからにはアンケートを実施し、そのデータ整理も行った。その他、ボランティア活動の充実を進め、育成等も実施した。【処理番号1413B1も参照】

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援し、今中期計画期間の事業の2年目として予定されていた京博ナビゲーターの交代を行うなど順調に事業を実施できた。今後も事業を継続し、内容の充実を図りたい。また、30年度は第1期京博ナビゲーターのアンケート分析を行い、活動の改善を行う。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1312C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
（奈良国立博物館）
ア　ボランティア新制度２期の最終年度として、ボランティアの各グループ（世界遺産グループ、解説グループ、サポートグループ）の活動の充実を図る。
イ　ボランティアの資質向上を目的に、定期的に研修を実施する。
ウ　勉強会や見学会等によって、ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。
エ　ボランティアが自主的に実施するガイドツアー等のプログラムの支援を行う。
オ　ボランティア新制度3期の公募・選考を行う。

担当部課	ボランティア室	事業責任者	室長（兼副館長）　石垣鉄也

【実績・成果】
（奈良国立博物館）
ア　ボランティア新制度2期の最終年度となり、世界遺産グループ（48人）、解説グループ（61人）、サポートグループ（34人）の3つがそれぞれ充実した活動を行った。世界遺産学習として奈良市の小学5年生（32校2,022人）のほか、学校プログラムとして県内外の幼稚園～高校生､海外からの学生を受け入れた（20校1,001人）。奈良市教育委員会との協働で｢親子で学ぼう博物館｣を夏休みに実施した（2日間）。この事業では、ボランティアが半年間の打合せと練習を行った。名品展（平常展）では､要所にデスクを設け、年間を通じて、質問対応や解説を行った（合計1,254席）。また、｢なら仏像館｣ツアー解説を毎日2回実施した。3つのグループ合同で、正倉院展会期中に、講堂ボランティア解説を実施した（17日、97回）。この事業に関しては、教育室がスライド資料と原稿を作成し、ボランティア室が約1ヵ月間の練習立会と指導をした。
イ　ボランティアに対して、名品展研修を行う（10回）とともに、特別展、特別陳列の開催ごとに展覧会担当者による展示内容の研修を実施した（6回）。ボランティア全員に解説と自己鍛錬のための学習資料として、全ての展覧会図録を配布した。
ウ　ボランティアのグループ別に、毎月の勉強会を実施した（合計24回）。スキルとチーム力の向上を目指し、毎月テーマを設けて指導した。解説グループでは、オブザーバーとして各分野の担当研究員が立会、指導した（10回）。
エ　ボランティアによる自主企画として当館敷地内の茶室庭園の案内ツアーを実施した。また､特別展ゆかりの社寺見学会を実施し、ボランティア通信誌を発行してボランティア間の情報共有に努めた。ボランティア活動3年間の集大成として、｢第2回ボランティアフェスタ｣を実施した。実施にあたって委員会を設置し､1年間の打合せを行った。グループを超えてボランティア全員が協力し、充実した活動になった。
オ　30年度活動予定のボランティアを募集した（定員150人）。募集説明会を11月に4回実施（218人参加）し、最終応募数は285人となり、書類選考、面接を経て、30年度受入人数は166人となった。

【補足事項】
ア・奈良市教育委員会と協働｢親子学ぼう博物館｣は、2日間で18組の親子参加。
　・なら仏像館ツアー解説は、開館日毎日11時と12時半に実施した（600回）。
　・特別陳列「お水取り」のツアー解説を30年3月に実施した（14日27回）。
　・年間を通じ、講座及びイベント等の館事業の支援･補助を行った（合計46回）。
　・第69回正倉院展の講堂ボランティア解説は17日間97回で、
　　延べ223人のボランティアが活動した。
イ・ボランティアと博物館の意思疎通をはかるため、
　　ボランティア会議を定期的に実施した（7回）。
エ・ボランティア通信誌「ブリッジ」を4回発行した。
　・庭園見学ツアーを4月と11月に、仏教美術資料研究センター見学会を3月に、
　　合計4回実施した。
　・社寺見学会を4月と9月の2回実施した。
　・英語解説のために自主勉強会を定期的に行った。
　・｢第2回ボランティアフェスタ｣を12月17日（無料観覧日）に実施した。
　　館内全域で14ブースに分かれて活動した。（来館者4,276人）
　・グループ毎にスタッフ室の掃除を実施した（10回）。
　・ボランティア親睦会を30年3月に実施した（参加は職員含む153人）。

第２回ボランティア･フェスタの実施

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
ボランティアの受入人数	143人	-	-		114	110	157	150

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 新ボランティア制度の2期目の最終年度である第3年次にあたって、引き続き143人のボランティアを受け入れるとともに、研究員による名品展（平常展）研修（10回）、特別展・特別陳列研修（6回）を実施するなど資質の向上等を図るための取り組みを計画通り実施した。また、ボランティアにより、世界遺産学習（32校2,022人）、名品展デスク解説等（延べ1,254席）、正倉院展解説（17日97回）等を実施した。なお、3期ボランティアの公募選考を行うとともに、現行ボランティアの企画立案による、第2回ボランティアフェスタを実施し、ボランティア活動の周知に努めた。

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 ボランティアによる、世界遺産学習、ツアー解説、庭園ツアー、正倉院展解説等はその参加者から高い評価を得ており、30年度以降も引き続きボランティアを受け入れることとし、新制度による3期目の募集要領を広く広報するとともに合わせて説明会を開催した。結果、285人の応募があり、書類選考、面接及び事前研修を経て、166人を30年度以降3ヵ年にわたり受け入れることとした。これにより、教育活動の充実及び来館者サービスの向上等に努めるものである。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1312D

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
（九州国立博物館）
ア　ボランティアを受け入れ、展示解説部会、教育普及部会、館内案内部会（日本語、英語、中国語、韓国語）、環境部会、イベント部会、資料整理部会、サポート部会、学生部会、フィールド部会の充実を図る。そのための基礎研修を行い、各部会の学習機会を充実させる。

担当部課	交流課	事業責任者	課長　吉川利幸

【実績・成果】
(九州国立博物館)
1)第5期ボランティアを中心とした主体的な活動を重視することによって、活動意欲の向上、活動の活性化・充実、そして市民視点の活動の創造等が行われた。
2)ボランティア自身の企画・実施による研修等を積極的に実施することで、活動の資質の向上や活性化、発展が行われた。
3)イベントやワークショップ等の実施においては、ボランティアの主体性・自主性を尊重した取り組みを行った。

【補足事項】
1)活動の中心が第4期ボランティアから第5期ボランティアとスムーズに移行し、開館以来の活動に加え、新たな視点・思いによる活動が加わり、活動の発展や充実が計られた。
・各期ボランティア数
第4期ボランティア（25年4月より活動）数　158人（任期制ではない手話部会含む）
第5期ボランティア（29年4月より活動）数　155人（同上）
・通常の活動においては、1日平均30～50人、1ヶ月平均のべ1,000人前後のボランティアが、主に午前と午後に分かれて活動。約6割のボランティアが週1回程度で活動。
・日常の活動は、館内案内、あじっぱ（体験型展示室）における活動のサポート、文化交流展示室の解説案内、博物館内のIPM（総合的生物管理）活動や、土日を中心とした手話通訳による案内。
〔ボランティア対応数〕（事前申込・当日受付の総数）
展示解説：8,289人　館内案内（含手話）：8,544人　バックヤード：3,711人

視覚障がい者対応の様子（３Ｄコピー装置での出力物に触れる）

2)活動の活性化・発展・創造やボランティアの資質向上を目的に、ボランティア自身の意向に沿った研修や館外研修（視察・交流等）を実施した。
〔主な研修〕
障がい者接遇・英語解説講座・古代韓国歴史講座・古文書講座・IPM関連講座
〔主な館外研修先〕
壱岐市立一支国博物館・熊本市現代美術館・兵庫県立人と自然の博物館・兵庫県立考古博物館・求菩提資料館・宗像大社宝物館 等

ボランティア研修の様子（バックヤードツアー：第４期による第５期への指導）

3)企画から実施まで、すべてボランティアに担わせることで、イベントやワークショップのみならず、通常の活動においてボランティア自身や部会（グループ）の主体性や自主性を高めることができた。
〔実施したイベント等〕
第1回きゅーはくキッズミュージアム（12月23日）、第10回九博子どもフェスタ（30年2月25日）
折り紙イベント（5月、7月、10月、30年3月）、さげもんワークショップ（10月、30年1月）

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
ボランティアの受入人数	313人	-	-		287	352	352	307

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 ボランティアの各部会同士の横のつながりを意識したイベントや研修等を28年度よりも多く実施することができた。また、九州国立博物館振興財団支援事業のグループ活動に参加したボランティアの人数が増加したことで、28年度よりも部会の枠を超えたつながりを意識した活動が増えている。 毎月開催のボランティアの連絡会で、行事等の実施2ヶ月前までに情報提供したことで、自主的かつ積極的に活動に参加するボランティアが増えている。

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 29年度は、学校との連携事業（学校教育支援事業など）に積極的に当館のボランティアに関わってもらった。30年度に向けて、学校側と協議し計画的に九博ボランティアを活用した博物館見学や出前授業に行くなど、教育課程を意識した活動を増やしていきたいと考えている。また、他県の施設や他館で活動するボランティアとの交流会を定期的に開催することができた。特別支援学校への対応は職員が中心であるが、当館ボランティアがより活躍できるよう、事前研修等を実施して対応できるようにしている。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1313A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
（４館共通）
ア　キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　インターンシップを継続して実施する。
（東京国立博物館）
ア　キャンパスメンバーズを対象とした「博物館講座」、「博物館セミナー」を実施する。
イ　東京藝術大学との連携事業を継続して実施する（大学院生対象）。

担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課	事業責任者	課長　竹之内勝典 課長　小林牧

【実績・成果】
（４館共通）
ア　加入校数 53 校（内訳　法人：3、大学：46、専門学校：2、学部：2）が本制度を利用し、27,193 人の学生、900 人の教員が総合文化展を観覧した。なお、特別展割引については、10,713 人の学生が利用した。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起及び職業意識の育成を目的として、大学院生等を対象にインターンシップを募集し、10 部署で 10～30 日の活動を行い、17 大学 26 人が修了した。
（東京国立博物館）
ア　キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の役割、運営、保存修復、博物館情報、教育普及事業等について実践を交えた「博物館セミナー」を実施した。また、キャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱いなど博物館実務全般について「博物館講座」を開催した。博物館への来館を促進するポスターを作成し配布した。
イ　東京藝術大学大学院インターン調査研究班 6 人、ギャラリートーク班(研究発表班)2 人が活動した。
○　大学、専門学校からの団体見学申込に対し、自由見学前にレクチャーを提供し、22 校 571 人に対応した。

【補足事項】
（東京国立博物館）
ア
・キャンパスメンバーズ加盟校の学生を対象としたセミナー(7 月 26 日、参加 56 人)
・キャンパスメンバーズ加盟校の学芸員志望学生を対象とした博物館学講座(7 月 24 日～28 日、参加 16 大学・27 人)

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定		25	26	27	28
キャンパスメンバーズ加入大学数	53校	-	-	経年変化	43	44	48	52
インターンシップ参加者数	26人	-	-		-	-	23	22
見学対応実施回数	22回	-	-		-	-	12	14
見学対応参加者数	571人	-	-		-	-	275	480
その他大学との連携事業実施回数	1回	-	-		-	-	1	1
その他大学との連携事業参加者数	27人	-	-		-	-	37	36

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 キャンパスメンバーズ(53校)及びインターンシップ(26人)による大学等との連携を継続して実施しているほか、東京藝術大学等との連携事業に順調に取り組んでいる。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 インターンシップの受け入れやセミナー等、大学との連携事業を通じて人材育成に寄与しており、今後も継続して取り組んでいく。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1313B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
（４館共通）
ア　キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。
（京都国立博物館）
ア　京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座を担当する。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　數馬厚人 上席研究員　宮川禎一

【実績・成果】
（４館共通）
ア　キャンパスメンバーズを継続し、大学と連携（29校）した。
（京都国立博物館）
ア　京都大学大学院人間・環境学研究科の教員として、山本英男（中世絵画）・宮川禎一（考古）・山川曉（染織）・大原嘉豊（宗教絵画）の4人が人間・環境学研究科の大学院生（修士・博士課程在籍者）に対して博物館内で実物作品をテーマに講義・ゼミを行った。受講学生数はのべ12人である。

【補足事項】
（４館共通）
ア
・各大学へキャンパスメンバーズ制度についてのアンケートをとり、意見・要望を受け特典の見直しを図った。30年度より、教職員を特典の対象として新規に加え、また特別展料金もより利用しやすい金額に変更する予定である。
・キャンパスメンバーズ加入案内のチラシを新規に作成し、未加入校への広報活動に力をいれた。
・29年度は新規に2校が加入した。

キャンパスメンバーズ案内チラシ

（京都国立博物館）
ア
・学芸研究員4人は客員教授2人（山本・宮川）、客員准教授2人（山川・大原）の体制で、京都大学大学院人間・環境学研究科在籍の学生に対して研究指導を行った。また修士・博士課程の2人について論文作成の指導を適宜行った。
・京都大学の日本文化留学生に対して「日本の美術」と題する講座を博物館会議室で開催（30年1月10日、講師は山川曉）し、日本の美術と文化に関する理解をはかった。参加者は17人であった。
・河内長野市の金剛寺文化財調査（社寺調査）に美術史専攻大学院生を参加させて文化財の取り扱いや調書作成の実際を研修指導した。（6月19日～23日）

社寺調査風景（漆器の調査）

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定		25	26	27	28
キャンパスメンバーズ加入大学数※	29校	-	-	経年変化	29	29	29	27
インターンシップ参加者数	2人	-	-		-	-	2	3
連携講座参加者数	6人	-	-		-	-	6	6
見学対応実施回数	3回	-	-		-	-	2	2
見学対応参加者数	40人	-	-		-	-	41	35
その他大学との連携事業実施回数	22回	-	-		-	-	1	22
その他大学との連携事業参加者数	27人	-	-		-	-	22	52

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
キャンパスメンバーズについては、広報活動に力を入れ、新規に 2 校が加入した。また、特典対象範囲や料金設定の見直しを図り、より多くの学生・教職員が来館しやすい魅力ある制度へと変更した。
また、京都大学連携講座による大学院学生に対して作品の実物教育を中心に研究の指導をおこなうことができた。これは30年度以降も着実に行う予定である。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
キャンパスメンバーズについては、広報活動の展開により 28 年度減少した加入校分を補うとともに、魅力ある制度への見直しにより、30 年度にも新規に 1 校が加入する予定となっている。引き続き広報を展開し、加入校獲得と来館者増に寄与する。
また、京都大学大学院学生の研究指導は今後も計画的に行い、文化財に関わる人材の育成に貢献する。

※奈良国立博物館との共通加入校含む

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1313C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
（４館共通）
ア　キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　インターンシップを継続して実施する。
（奈良国立博物館）
ア　奈良女子大学及び神戸大学との連携講座を継続して実施する（大学院生対象）。
イ　大学、高校において正倉院展に関する特別授業を実施する。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　室溪浩

【実績・成果】
（４館共通）
ア　キャンパスメンバーズへの入会の勧誘及び更新を積極的に進めてきた結果、29年度までで入会校数は27校となり、加入大学とは連携を継続した。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　立命館大学から2人の学生をインターンシップとして受け入れた。
（奈良国立博物館）
ア　奈良女子大学大学院人間文化研究科の連携講座（日本アジア文化情報学講座）に学芸部研究員1人を客員准教授として派遣し、日本アジア古典資料論の講義を行った。受講生は前期2人、後期1人であった。
　神戸大学大学院人文学研究科の連携講座（文化資源論講座）に、学芸部研究員2人を客員教授と客員准教授として派遣し、文化資源論の講義を行った。受講生は、修士課程、博士課程の大学院生9人であった。
イ　京都美術工芸大学にて正倉院展に関する出前授業を実施した。(10月2日)

【補足事項】
（４館共通）
ア　キャンパスメンバーズ加入校である奈良教育大学と連携しワークショップ「つくってわかる！立体地獄絵」を実施した。(7月)
（奈良国立博物館）
ア
・奈良女子大学大学院人間文化研究科
　野尻忠企画室長「日本アジア古典資料論Ⅰ・Ⅱ」
・神戸大学大学院人文学研究科
　岩井共二情報サービス室長、吉澤悟列品室長「文化資源論講座」
イ　京都美術工芸大学
　内藤栄学芸部長「正倉院展 出前授業」

「つくってわかる！立体地獄絵」

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
キャンパスメンバーズ加入大学数※	27校	-	-		26	27	27	25
インターンシップ参加者数	2人	-	-		-	-	3	3
連携講座参加者数	12人	-	-		-	-	10	10

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 大学との連携事業において講座を提供し、歴史・伝統文化の発信に努めたほか、キャンパスメンバーズ加入校との共同で小学生を対象としたワークショップを実施するなど、教育普及活動を行うことができた。また、インターンシップとして大学生の受入れを行い、博物館業務を体験したほか、設定した課題について学生が取り組み、その後職員と議論を行うなど能動的な内容と入れることで充実を図った。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業は計画どおりの実施ができた。特に親子向けのワークショップでは、キャンパスメンバーズ加入校で教育系大学との連携実施により、参加者と講師役の大学院生双方に教育的効果のある企画となり、人材育成に寄与できた。以上のことから中期計画に対し順調に成果を上げている。

※京都国立博物館との共通加入校を含む。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1313D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
（４館共通）
ア　キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　インターンシップを継続して実施する。
（九州国立博物館）
ア　大学生の博物館実習の受け入れを実施する。
イ　放送大学の面接授業を実施する。

担当部課	学芸部博物館科学課 交流課 総務課	事業責任者	課長（兼環境保全室長）　木川りか 課長　吉川利幸 課長　菅原秀倫

【実績・成果】
（４館共通）
ア　キャンパスメンバーズによる大学等との連携を継続して実施した。筑紫台高等学校は、キャンパスメンバーズ制度を活用し、授業のカリキュラムとして当館の特別展を観覧した。また、福岡女子短期大学音楽科とは、28 年度に引き続き定期的にカフェコンサートを実施しており、継続的な連携ができている。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　文化財保存修復施設を利用して地域大学との連携を図る短期インターンシップを実施した。
(九州国立博物館)
ア　博物館実習生を12大学16人、計10日間受け入れた。（うちキャンパスメンバーズ校は7大学11人）
イ　放送大学の面接授業を実施した。（2日間、40人受講）

【補足事項】
（４館共通）
ア　大学等との連携を継続するため、29年度も募集・実施し、各教育機関（大学・短期大学・専門学校・高等学校）が継続して加入した。また、高等専修学校1校が新規に加入した。（加入校内訳：大学15校、短期大学2校、専門学校1校、高等学校6校、高等専修学校1校）
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　装潢技術に関する短期インターンシップ「文化財保存修復研修」を実施した。
（8月28日～9月1日の5日間）
佐賀大学2人、広島市立大学1人の計2大学3人が参加した。屏風の下貼り製作を通じて、修理の基本となる作業を体験できる貴重な機会を提供した。
（九州国立博物館)

博物館実習（文化財写真についての実習風景）

ア
・実習実施期間：8月18日～28日（延べ10日間）（合計12大学16人）
・実習内容：博物館の各機能に関するレクチャー、実習（来館者対応、なりきり学芸員体験、体験型展示室「あじっぱ」用ＢＯＸキットの製作）等を行った。また新たなプログラムとして、文化財写真についての実習を実施した。
○西南学院大学、長崎国際大学、別府大学、京都大学、広島市立大学、新潟国際情報大学等の非常勤講師を当館職員が勤めた。

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定		25	26	27	28
キャンパスメンバーズ加入大学数	25校	-	-	経年変化	24	24	25	25
インターンシップ参加者数	3人	-	-		-	-	7	4
見学対応実施回数	3回	-	-		-	-	7	6
見学対応参加者数	140人	-	-		-	-	450	243
その他大学との連携事業実施回数	8回	-	-		-	-	12	11
その他大学との連携事業参加者数	105人	-	-		-	-	86	136

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 12大学16人の博物館実習生を受け入れ、講義・実習内容の精選を行い、館内各課と連携しながら10日間にわたる博物館実習を実施できた。その他インターンシップ等、大学等との連携を継続して実施した。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 当館が対応でき得る適切な数の博物館実習生受入を行い、中期計画通り、人材育成に寄与できた。引き続き広報周知を行い、大学との連携事業を推進していきたい。

【書式Ａ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1314A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】
（４館共通）
　保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　冨坂賢

【実績・成果】
（４館共通）
・東京藝術大学大学院から2人のインターン生を延べ10日間受け入れた。作品の点検調書、カルテなどの電子化作業、特別展展示作業の見学、測定サンプルつくりなど科学調査の現場作業、修理作業周辺の関連作業を行ってもらい、最終日には作業の報告会を行った。
・ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）主催の研修生への保存と修理に関するレクチャーを行った（土屋裕子）。
・特定非営利活動法人 文化財保存支援機構主催の29年度文化財保存修復を目指す人のための実践コース1回目II.考古遺物の修理仕様と設計のうち「東博における企画競争入札」（冨坂賢）、4回目IV. 油彩画の修理と仕様設計のうち「企画競争を見据えた油彩画の修理設計について」（土屋裕子）、それぞれ講義を行った。

【補足事項】

インターン生による報告会の様子

NPO セミナーの講義（冨坂）

NPO セミナーの講義（土屋）

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
保存修理事業者を対象とした研修会								
開催日数	3回	-	-		2	2	1	1
参加者数	39人	-	-		48	37	18	23
インターン受入人数	2人	-	-		8	2	4	4
大学院生のための研修会参加人数	-	-	-		-	-	-	-

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 インターン生の受け入れは2人から4人を想定しており、想定人数の受け入れを行えた。保存修復課の日常業務を経験してもらい、大学教育を補完できる教育活動を行った。

【中期計画記載事項】
　保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 受け入れ限度は4人であり、今年度は2人であったが、その分指導が行き届いた。インターン応募は大学側の事情に左右されることが多いが、これまで国内外の人材が集まっていたことから、主体となる博物館教育課との連携を強化する必要がある。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1314B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】
（４館共通）
保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　大原嘉豊

【実績・成果】
（４館共通）
・毎月１回文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、文化財の修復状況を確認するともに、修理技術者に指導・助言を行った。 また、２ヶ月に１回、修理技術者と当館との定例会議を開催した。（巡回 11 回・会議 7 回）
・当館開催の特別展覧会において、修理技術者に対する定例の研修会を実施した。（2 回・129 人）
　4 月 17 日「開館 120 周年記念特別展覧会　海北友松」（60 人）
　10 月 10 日「開館 120 周年記念　特別展覧会　国宝」（69 人）
・文化財修復に係わる大学院生（2 人）のインターシップ実習（8 月 21 日～9 月 1 日、9 月 11 日～22 日）を実施し、11 月 24 日に口頭による報告会を開催し（出席者 27 人）、報告書を作成した。
・保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会を 9 月 8 日に実施した。（参加者 9 人）
・国内外博物館における保存科学、修復の専門家等による文化財保存修理所の視察を受入れ、情報交換等を行った。（35 回・98 人）
　4 月 6 日　Asian Art Museum of San Francisco（1 人）
　5 月 10 日　The Museum of Modern Art(MoMA)（1 人）
　5 月 12 日　東京国立博物館（1 人）
　7 月 18 日　William and Helen Pounds the Museum of Fine Arts, Boston（1 人）、ほか 31 回
・7月3日の京都市消防局主催第35回「文化財防火・市民講座」の実施に協力し、文化財保存修理所の一般対象の見学事業を初めて実施した。

【補足事項】
・文化財保存修理所巡回によって、技術者から文化財の修復状況について説明をうけ、当館研究員から専門的な立場から指導・助言を行った。
・修理技術者に対する定例の研修会においては、実際の文化財を目にすることにより、修理技術の習得や向上に資することができた。
・文化財修復に係わる大学院生をインターンシップとして受け入れ、実習を行ったことは、修復技術の継承や今後の技術者育成を考える上でも意義は大きい。
・保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会は関係教育機の間で周知が進み、参加校も増え、優秀な学生が参加するようになった。実際の修理現場の見学・説明といった研修を行うことで、学生の意欲や目的識の向上を図ることができた。

保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会（9 月 8 日）

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
保存修理事業者を対象とした研修会								
開催回数	2回	-	-		3	2	2	2
参加人数	129人	-	-		140	87	126	96
インターン受入人数	2人	-	-		4	1	2	3
大学院生のための研修会参加人数	9人	-	-		18	19	22	13

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
28年度とほぼ同等の事業を遂行し、インターンの受け入れ事業を実施した。当館120周年を記念し、京都市消防局主催第35回「文化財防火・市民講座」に協力し、試験的に一般見学を実施した。一般に対する修理事業の普及啓発活動を行った点は、初めての試みとして評価されるべきものであるが、施設見学の困難さが今後の課題として依然と存在している。

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業の目標を順調に達成した。当館120周年を記念し、京都市消防局主催第35回「文化財防火・市民講座」に協力し、試験的に一般見学を実施した。この種の一般向け普及啓発活動を今後の課題としているが、継続して検討を加えたいと考えている。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1314C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等 4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】
（４館共通）
保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　鳥越俊行

【実績・成果】
（４館共通）
・保存修理技術者に対する研修会を30年2月2日に開催した。
・海外の修理技術者等の視察を7回受け入れ、各工房技術者との間で情報交換を行った。
4月 5日：メトロポリタン美術館、ボストン美術館の美術担当学芸員による視察（2人）
4月11日：メトロポリタン美術館の美術担当学芸員による視察（1人）
8月28日：浙江省博物館職員による視察（1人）
12月18日：上海博物館保存担当職員による視察（1人）
12月19日：台湾故宮博物院保存担当職員らによる視察（6人）
12月20日：上海博物館保存担当職員による視察（1人）
30年1月16日：北米・欧州ミュージアム日本専門家連携・交流事業による研修（24人）

【補足事項】
・文化財保存修理所技術者研修会
30年2月2日に文化財保存修理所の各工房修理技術者を対象とする研修会を開催した。(株)文化財保存代表者からの修理に関する報告（「現在の文化財修理の中の表具」）と討議を行った。参加者は41人。

研修会の様子

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
保存修理事業者を対象とした研修会								
開催日数	8回	-	-		6	4	6	4
参加者数	77人	-	-		71	67	74	51

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	視察の回数や人数は年により増減があるが、28年度と比較し、開催日数及び参加者数が増加した。29年度には東京国立博物館が主催する北米・欧州ミュージアム日本専門家連携・交流事業の研修を当館で受け入れ、アメリカ・イギリスをはじめ10ヵ国の専門家24人が文化財保存修理所を見学したことにより、日本美術の修理技術や修理の考え方を広く伝えることができた。30年度も同様の視察等を積極的に継続して受け入れていく。

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	海外修理技術者の視察等を受け入れ、文化財保存修理所の修理技術者と海外の技術者の交流を継続して行っている。特に29年度は北米・欧州ミュージアム日本専門家連携・交流事業の研修が当館で行われ、多くの専門家が視察に訪れた。また、保存修理研修会を通じて修理所内の各工房に在籍する技術者間の交流が図られた。これらの活動を通じて文化財の保存・修理に関する人材育成に寄与できおり、中期計画は順調に進んでいる。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1314D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】
（４館共通）
保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長（兼環境保全室長）　木川りか

【実績・成果】
（４館共通）
・保存修理事業者を対象とした研修会等を開催した。(計1回・126人参加)
・インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を行った。(計3回・27人参加)
・文化財保存、ＩＰＭ（総合的有害生物管理）普及のための講座・研修を開催した。（計5回、合計380人参加）

【補足事項】
○保存修理事業者を対象とした研修会等
・文化財保存修復学会公開シンポジウム「博物館におけるＩＰＭのこれから」
講師：本田光子氏・木川りか・間渕創氏・高畑誠氏
日程：4 月 8 日
参加人数：126 人
対象：一般
○保存修理事業者と協力した研修会
・短期インターンシップ「文化財保存修復研修」
日程：8 月 28 日～9 月 1 日（5 日間）　参加人数：3 人
対象：関西以西の大学・大学院で保存修復を学ぶ学生
・「古文書保存基礎講座」
日程：30 年 1 月 19 日、20 日　参加人数：24 人
対象：福岡県内を中心とする地域の博物館・美術館・文化財関連機関の古文書等の担当者
主催：九州国立博物館・福岡県教育委員会・筑紫野市歴史博物館
協力：国宝修理装潢師連盟

文化財保存修復研修の様子

○ＩＰＭ普及のための研修会
・「ＩＰＭ館内研修」
日程：5月24日
参加人数：24人
対象：機構内・館内関係者
・「環境調査報告会」
日程：6月15日
参加人数：27人
対象：館内環境整備関係者
・「ＩＰＭセミナー・ＩＰＭ研修」
ＩＰＭセミナー：10月25日、ＩＰＭ研修：10月26日、27日　参加人数：延べ203人
対象：全国の博物館、美術館等の学芸員

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
保存修理事業者を対象とした研修会								
開催回数	9回	-	-		6	9	7	6
参加者数	533人	-	-		139	175	179	473
インターン受入人数	3人	-	-		-	-	-	-

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	文化財修理に関するインターンの受け入れやＩＰＭ研修等の教育普及事業を計9回実施することができた。参加者数は28年度に比べ増加しており順調に推移している。

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	地元の教育委員会等と連携し、修理技術者やＩＰＭ従事者等の協力を得ながら、実習も積極的に取り入れたプログラムで実践的な研修を中期計画どおりに実施できた。特に29年度はＩＰＭ普及に関して、館内外の学芸系職員だけでなく一般も含め関心のある方々を対象にしたことで、裾野が広がった。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1315A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
（4館共通）
企業との連携及び会員制度の活性化を図る。
ア　会員制度によるリピーターの拡大に努める。
イ　会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
ウ　企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
エ　展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
オ　2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を検討する。
（東京国立博物館）
ア　各種会員制度を整理し、割引の適用や新たな会員制度を導入することで、リピーターの促進を図る。
イ　上野「文化の杜」新構想実行委員会に参画し、各種事業を主体的に実施し、来館者の増加を図る。

担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典

【実績・成果】
（4館共通）
ア　29年度より新会員制度へ移行し会員総数は25,244人となり、制度改正前の駆け込み需要で大幅増となった28年度からは減少した。
イ　友の会、賛助会会員を対象に、講演会を実施した。また、賛助会会員を対象に感謝会・内覧会を実施した。
ウ　株式会社みずほ銀行やアメリカン・エキスプレス・インターナショナル,Inc.等の賛助会員と協同でキャンペーンを行い、認知度の向上に努めた。
エ　特別展「タイ　～仏の国の輝き～」において、三菱商事株式会社と共催で障がい者向けの「特別鑑賞会」を実施した。
オ　各種事業のbeyond2020への登録や、文化庁が主催する高校生ニッポン文化大使2017に参画した。
（東京国立博物館）
ア　29年度から新たな会員制度として「国立博物館メンバーズパス（4館共通）」及び東京国立博物館オリジナル制度「メンバーズプレミアムパス」「友の会」を導入した。
イ　上野「文化の杜」新構想に基づき、上野全体の共通入場券「UENO WELCOME PASSPORT」の発行やコンサート等を実施した。

【補足事項】
ア　賛助会会員数559人の内訳は個人492人（プレミアム3人、特別15人、維持474人）、団体67団体（特別19団体、維持48団体）である。

29年度賛助会感謝会の様子
（事業報告会）

レストランとアメリカン・エキスプレスの協同企画「THE GREEN Café」

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定		25	26	27	28
賛助会等支援組織の会員数	25,244人	-	-	経年変化	18,439	23,899	23,451	28,939
賛助会会員数	559人	-	-		379	414	464	455
友の会会員数	2,967人	-	-		1,586	2,145	2,041	2,337
メンバーズプレミアム(国立博物館メンバーズパスを含む)会員数※28年度までのパスポートとベーシックに相当	21,718人	-	-		16,474	21,340	20,946	26,147

【年度計画に対する総合評価】評定：B	【判定根拠、課題と対応】 会員や来館者の動向を基に、4国立博物館共通の新たな会員制度をはじめ、個人会員全体の見直しを行ったことで、利用者の選択肢を充実させることができた。利用者の目的に応じた会員制度を創設したことで、特典提供に際する博物館側の従前の負担を軽減し、利用者へのサービスと博物館の負担との相対的なバランスを見直した。新制度の創設にあたって、会員制度の広報周知を図り、国立博物館全体の広報も兼ねることで当初の目的を達成した。2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、企業等と連携に注視した賛助会制度の活用により、企業との協同事業を実施した。上野「文化の杜」新構想では、上野公園周辺の文化施設と協同し、芸術文化の発信事業やコンサートを実施するとともに、「UENO WELCOME PASSPORT」の継続的な実施では先導的な役割を果たしたと言える。

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】評定：B	【判定根拠、課題と対応】 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、日本文化の発信、認知活動にあたり、賛助会に加入する民間企業との協同事業を実施し、博物館単独では行うことが困難な広報展開などを図り、博物館が民間企業との協同実践の場であることを周知した。これまでの来館者調査の結果を踏まえた会員制度の見直しでは、利用者にわかり易い制度に改編したことで、従来の利用者に対しては改めて博物館の利用方法を周知するとともに、新規利用を検討する方々には年間を通じた博物館の展覧会事業等を周知することができた。賛助会については、個人・団体ともに順調に増加傾向にある。賛助会は博物館への長期的な支援を念頭に置いた寄附制度であり、国からの支援に限らず、独自の取り組みにより財政基盤を形成すべく、支援者の意見を参考とし、国内外の新たな会員の獲得に向けて、さらに会員の獲得と制度の充実を図る。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1315B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
（４館共通）
企業との連携及び会員制度の活性化を図る。
ア　会員制度によるリピーターの拡大に努める。
イ　会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
ウ　企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
エ　展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
オ　2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を検討する。
（京都国立博物館）
ア　支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。
イ　ミュージアムパートナー制度及び文化財保護基金制度を活用し、企業等との連携を図る。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	総務課長　數馬厚人 企画室長　伊藤信二

【実績・成果】
（４館共通）
ア　28年度末で終了した「パスポート」事業会員について、新規事業「国立博物館メンバーズパス」への移行促進に努めた。
イ　「国立博物館メンバーズパス」会員を対象とした事業を実施した。
ウ
・日本橋三越本店と連携し、「京都国立博物館120周年展」を実施することにより、博物館の認知度向上に努めた。
・タクシー乗務員向けの特別鑑賞会を実施し、広報協力を得ることができた。
エ　特別展覧会「海北友松」、「国宝」の協力企業である、株式会社日本香堂提供のラジオ番組で、展覧会のPRを行った。
オ　2020年東京オリンピック・パラリンピックへの布石として、beyond2020へ展覧会や各種イベントの申請を行った。また、各種事業についての検討を会議等にて行った。
(京都国立博物館)
ア　支援団体(一般社団法人清風会)が行う鑑賞会(4回)・見学会(4回)・会報(4回)の解説・執筆及び、総会の開催に協力した。
イ　「ミュージアムパートナー」制度について引き続き周知を続けた結果、京都美術工芸大学が新たに加わった。

【補足事項】
（４館共通）
イ　当館ミュージアムショップにおいて、「パスポート」提示により、京都水族館の入場料が割引になる等の特典がある。
ウ　京都国立博物館120周年展では、館長トークショー、博物館の事業紹介パネル展示、文化財保護基金グッズ販売を行った。

京都国立博物館 120 周年展

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定		25	26	27	28
賛助会等支援組織の会員数	2,266件	-	-	経年変化	2,631	6,873	7,476	5,855
清風会及びミュージアムパートナー会員数	452件	-	-		336	351	368	370
国立博物館メンバーズパス会員数	1,814人	-	-		-	-	-	-
パスポート会員数※	-	-	-		2,295	6,522	7,108	5,493

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 企業と連携したイベントについて、従前のトークショー、グッズ販売に加えて、新たに博物館の事業紹介パネル展示（保存修理）を行うことにより、博物館の活動をより深く伝えることができた。 新制度「国立博物館メンバーズパス」の会員数は1,814人で、28年度までの「パスポート」制度の会員数を上回ることができなかった。原因として、特別展覧会を特典内容の対象とした会員制度ではなくなったことが挙げられる。今後広報活動に力を注ぎ、会員数を増加させたい。

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 企業や近隣の美術館及び博物館等とともにイベント等を実施し連携を深めることができた。会員制度については、制度変更により会員数が減少してしまったため、今後「メンバーズパス」の広報活動に力を注ぎ、会員数の増加を図りたい。

※パスポート制度は29年3月31日で廃止

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1315C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
（４館共通）
企業との連携及び会員制度の活性化を図る。
ア　会員制度によるリピーターの拡大に努める。
イ　会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
ウ　企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
エ　展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
オ　2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を検討する。
（奈良国立博物館）
ア　支援団体等との連携により施設を活用したイベント等を実施し、博物館支援の輪を広げる。
イ　支援団体等と連携し、展覧会の充実を図る。
ウ　賛助会員制度の継続・拡充を図る。
エ　地域、企業との連携を推進する。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　室溪浩

【実績・成果】
（４館共通）
ア　29年度に創設した「奈良博プレミアムカード」と「国立博物館メンバーズパス」について、チラシ・ポスターを作成するなど広報活動を行い、新規会員の獲得を図った。
イ　賛助会員、プレミアムカード会員を対象とした解説付き鑑賞会を実施した。
ウ　企業と連携して、夜間開館延長をPRするための音楽コンサートを実施した。
エ　他の主催者と連携し、企業等からの協賛・協力を募った。
オ　外国人向け冊子「ミュージアム・3DAYSフリーパス・関西」の販売を行った。
（奈良国立博物館）
ア　支援団体等が主催する展覧会の解説付き鑑賞会の実施に協力した。
イ　特別展の実施に際して企業等からの協力金を得て特別展の充実を図った。
ウ　賛助会員22団体54人(特別支援会員：4団体、特別会員：3団体、一般会員(団体)：15団体、一般会員（個人)：54人)
エ　観光関連業界と連携し顧客層の開拓を行った。

【補足事項】
（４館共通）
イ　賛助会員、プレミアムカード会員に対する特別鑑賞会を実施するなど、あらゆる機会を通じて会員獲得に努めた。
ウ　大和ハウス工業と協力して、夜間開館をPRするためのコンサート「音燈華」を実施した。事前に放送されたラジオ番組では、コンサート情報とあわせて展覧会の情報を発信して博物館の認知度上昇を図った。

コンサート「音燈華」

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定		25	26	27	28
賛助会等支援組織の会員数	1,740人	-	-	経年変化	2,668	3,235	3,665	3,812
賛助会会員数	76件	-	-		70	73	74	73
奈良博プレミアムカード会員数	1,347人	-	-		-	-	-	-
国立博物館メンバーズパス会員数	317人	-	-		-	-	-	-
パスポート会員数※	-	-	-		2,598	3,126	3,591	3,739

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	29年度に創設した「奈良博プレミアムカード」と「国立博物館メンバーズパス」について、初年度の会員をそれぞれ1,347人、317人獲得した。 また、観光イベント「なら燈花会」や「なら瑠璃絵」に会場提供を行うことで地域活性化に貢献したり、企業と協力してPRイベントを行い夜間来館者の増加を図った。

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	新たな会員制度である「奈良博プレミアムカード」と「国立博物館メンバーズパス」について、チラシ・ポスターを作成するなどして普及に努めた。また、会員向けに特別鑑賞会を実施しサービス向上を図った。前年度までのパスポート会員とは制度が異なるために単純な比較はできないが、初年度としてはまずまずの会員数を確保できた。次年度に向けて、引き続き新規会員の獲得を図る。

※パスポート制度は29年3月31日で廃止

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1315D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
（４館共通）
企業との連携及び会員制度の活性化を図る。
ア　会員制度によるリピーターの拡大に努める。
イ　会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
ウ　企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
エ　展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
オ　2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を検討する。
（九州国立博物館）
ア　賛助会員制度を創設する。

担当部課	交流課 広報課 総務課	事業責任者	課長　吉川利幸 課長　田中正一 課長　菅原秀倫

【実績・成果】
（4館共通）
ア　「九州国立博物館友の会」制度を改定し、「九州国立博物館メンバーズプレミアムパス」及び「国立博物館メンバーズパス」の会員制度を開始した。
イ　「九州国立博物館友の会」会員を対象に、季刊情報誌『アジアージュ』、特別展示チラシ等を送付した。
ウ　古都太宰府ナイトエリア創出委員会や福岡県観光局と連携したイベントを実施し、広報活動の充実を図った。
エ　協賛企業より、展覧事業について各種支援（協賛・協力）を得た。
オ　29年度に実施した特別展示（一部を除く）及び留学生イベントについて、beyond2020プログラムの事業認証を受けた。
（九州国立博物館）
ア　「九州国立博物館賛助会」を創設した。

【補足事項】
ア　「九州国立博物館友の会」「九州国立博物館メンバーズプレミアムパス」「国立博物館メンバーズパス」「九州国立博物館賛助会」の会員制度について、当館ウェブサイト、リーフレット、チラシによる広報を行った。
ウ
・西日本新聞社及び（公財）九州国立博物館振興財団との共同事業として、国指定重要無形民俗文化財で平成28年にユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」の一つに登録された「博多祇園山笠」の飾り山を、開館以来連続してエントランスに展示した。

九州国立博物館メンバーズプレミアムパス会員証例

・支援団体である九州国立博物館を愛する会及び近隣市町の小学校と連携して、子どもたちを対象にしたワークショップイベントや児童画展を開催した。
・福岡女子短期大学と連携して館内のカフェで定期コンサートを実施した。
オ　特別展示「水の中からよみがえる歴史－水中考古学最前線－」「対馬－遺宝にみる交流の足跡－」「大分県国東宇佐六郷満山展～神と仏と鬼の郷～」「白隠さんと仙厓さん」、新春特別公開「徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度」、留学生イベント「文化交流ツアーin九博」の6件について、beyond2020プログラムの事業認証を受けた。

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
賛助会等支援組織の会員数	5,193人	-	-		4,774	5,182	5,777	6,016
賛助会会員数	2団体	-	-		-	-	-	-
友の会会員数	83人	-	-		141	192	206	268
メンバーズプレミアムパス会員数	5,082人	-	-		-	-	-	-
国立博物館メンバーズパス会員数	26人	-	-		-	-	-	-
パスポート会員数※	-	-	-		4,633	4,990	5,571	5,748

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 各種イベントの実施や、賛助会員制度の創設等により、企業との連携及び会員制度の活性化を図り、年度計画を実行できた。 ウェブサイトやパンフレット・チラシ等を用いて各会員制度の広報に注力し、5,000件を超える会員数を獲得することができた。今後も当館の活動への理解を深めていただけるよう広報の充実を図り、支援者の増加に努めたい。

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 賛助会制度の創設など、さらに企業との連携や会員制度の活性化等による博物館支援者の増加を図る基盤を整えることができ、中期計画を順調に推進している。30年度以降も活性化を図りたい。

※パスポート会員制度は29年3月31日に廃止。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1321A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　1)有形文化財に関する情報の発信

【年度計画】
（４館共通)
ア　収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行う。また、４館共通所蔵品データベースを運用・公開することにより、収蔵品情報の一層の充実を図る。
イ　収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（ｅ国宝）を継続して公開する。

担当部課	学芸企画部博物館情報課	事業責任者	課長　田良島哲

【実績・成果】
（４館共通）
ア　収蔵品のデジタル画像を資料館およびインターネットで継続的に公開した。また、4館共通所蔵品データベース「国立博物館所蔵品統合検索システム ColBase」を継続的に公開した。
イ　収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（ｅ国宝)を継続して公開した。またiOS、Androidそれぞれのアプリ版「ｅ国宝」を継続して公開した。なお、iOSアプリはiOS11へのバージョンアップにより従来の32ビット版アプリが動作しなくなったため、64ビット版へのバージョンアップを行った。またこれに合わせて一部機種の画面表示における不具合も修正した。

【補足事項】
（４館共通）
ア　「東京国立博物館研究情報アーカイブズ」サイト内の画像検索、デジタルライブラリーほか各種研究データベースにより収蔵品の画像を継続的に公開した。また、「ColBase」を継続的に公開した。
イ　各アプリ版「ｅ国宝」のダウンロード件数累計は以下のとおりである。
・iOS アプリ　643,763 件（23 年 1 月 20 日リリース）参考：28 年度末時点 568,173 件
・Android アプリ　195,364 件（25 年 2 月 6 日リリース）参考：28 年度末時点 189,351 件
○本館19室において、「ｅ国宝」のデータをタッチパネルで閲覧する「トーハクで国宝をさぐろう」及び三次元計測データをジェスチャーで操作する「トーハクをまわそう」をそれぞれ継続して公開した。

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
-	-	-	-		-	-	-	-

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	デジタル画像の公開については資料館、インターネットともに大きなシステム障害もなく順調である。「ｅ国宝」についてもウェブサイト、アプリ及び本館における来館者用端末での公開を継続することができた。特にアプリについては、iOSのバージョンアップに追随することができた。また「国立博物館所蔵品統合検索システム ColBase」を継続して公開することができ、中国語・韓国語のデータを追加して利便性を向上させることができた。

【中期計画記載事項】

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	デジタル画像の公開を継続することにより、文化財に関連する情報の公開を適切に行うことができた。今後も公開を継続するとともに、公開件数を増加させていきたい。「ｅ国宝」については、アプリをバージョンアップすることができた。今後さらに利用者環境や画像公開に関する国際的な動向を注視し、最適な方法での公開が行えるよう検討を続けたい。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1321B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信

【年度計画】
（４館共通)
ア　収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行う。また、４館共通所蔵品データベースを運用・公開することにより、収蔵品情報の一層の充実を図る。
イ　収蔵品の国宝・重要文化財について、5 言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（ｅ国宝）を継続して公開する。
（京都国立博物館）
ア　収蔵品の国宝・重要文化財・その他名品について 6 言語（日、英、中、韓、仏、西）の説明を付した国宝重要文化財・名品 高精細画像閲覧システムを継続して公開する。
イ　平成知新館2階レファレンスコーナーの情報閲覧システムにて、収蔵品の画像等を公開する。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　宮川禎一

【実績・成果】
（４館共通）
ア　収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供として、公開館蔵品データベースの登録及び更新を随時行った。29年度は、公開データを159件増加させ、アクセス数は77,939件であった。また、館蔵品データベースの公開情報をもとに運用されている、4館共通所蔵品データベースを通じた公開を継続して行った。
イ　収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語（日・英・中・韓・仏）の説明を付したデジタル高精細画像（ｅ国宝）を継続して公開した。29年度のアクセス数は62,345件であった。
（京都国立博物館）
ア　京都国立博物館所蔵国宝重要文化財・名品高精細画像公開システム「KNM GALLERY」を継続して公開した。
イ　館蔵品データベースにおいて画像や解説等を適宜更新し、平成知新館2階レファレンスコーナーの情報閲覧システムを通じ継続して公開した。

【補足事項】
館蔵品データベースにおいて、表示された画像のカラー・モノクロ表記の追加、画像の拡大表示をポップアップ画面に変更、目的の画像を探しやすくするため検索結果の分類表示項目を増やすなど、閲覧者により解りやすい様式に改修した。

館蔵品データベース公開画面

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
-	-	-	-		-	-	-	-

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 29年度も年度計画に基づいて、平成知新館レファレンスコーナーやデジタルサイネージを通して、来館者に対する効果的な情報発信を図るとともに、京都国立博物館所蔵国宝重要文化財・名品高精細画像公開システム「KNM GALLERY」を継続して公開した。一方で、「KNM GALLERY」は公開から7年経過し、セキュリティ上の脆弱性対応や、近年のスマートフォン等に対応する事が難しい等、複数の課題が判明しており、引き続き対応を検討するとともに、当面は応急的なセキュリティ対応を進める。

【中期計画記載事項】
ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 29年度もウェブサイト等において、画像や解説を継続して公開した。館蔵品データベースの29年度公開データを159件増加させ、中期計画通り順調に事業を実施出来た。ただし、公開を目的とするシステムが複数併存している状況は、セキュリティ対策だけでなく、多言語化や利活用として機能強化を図る面でも今後の検討課題である。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1321C

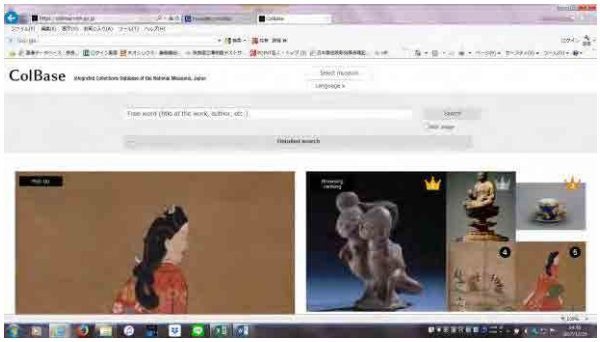
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　1)有形文化財に関する情報の発信

【年度計画】
（４館共通）
ア　収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行う。また、４館共通所蔵品データベースを運用・公開することにより、収蔵品情報の一層の充実を図る。
イ　収蔵品の国宝・重要文化財について、5 言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（ｅ国宝）を継続して公開する。
（奈良国立博物館）
ア　仏教美術情報の公開・普及を図る。
イ　「日本美術院彫刻等修理記録データベース」について、仏教美術資料研究センターでの公開と、ウェブサイト上でのテキストデータ公開を継続する。

担当部課	学芸部	事業責任者	資料室長　宮崎幹子

【実績・成果】
（４館共通）
ア　収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行った。
イ　収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（ｅ国宝）を継続して公開した。
（奈良国立博物館）
ア　仏教美術情報の公開・普及を図るべく、既存フィルムのデジタル化や新規撮影を行い、関連データを整備して、インターネット並びに仏教美術資料研究センターで公開した。また、29年度より国立博物館所蔵品総合検索システム「ColBase（コルベース）」に、収蔵品データベースから抽出した情報を提供して連携に対応した。
イ　「日本美術院彫刻等修理記録データベース」について、仏教美術資料研究センターでの公開と、ウェブサイト上でのテキストデータ公開を継続した。

【補足事項】
29年度より実質的な運用を開始した国立博物館所蔵品総合検索システム「ColBase（コルベース）」に、当館の収蔵品データベースから抽出した情報を提供している。ColBaseとは、4つの国立博物館（東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）の所蔵品を横断的に検索できるサービスである。このサービスに情報を提供することによって、利用者が当館の収蔵品情報にたどり着く糸口をおおきく広げることができた。画像データのサイズに関しては、ColBaseは長辺最大1,000ピクセルにとどまり、当館がウェブサイトで提供している画像データ（長辺最大4,000ピクセル）には及ばないものの、ColBaseは政府による日本文化の国際的な情報流通の促進に基づくプロジェクトであり、当館で長年蓄積・公開してきたデータベースをこうした外部検索システムと連携させることにより、情報の発信機能を強化させることが出来た。



国立博物館所蔵品総合検索システム ColBase

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
-	-	-	-		-	-	-	-

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	デジタル撮影（5,411件）、既存原板のデジタル化（3,017件）及びガラス乾板のデジタル化（13,698件）、データベースへの登録件数（4,683件）ともに例年に準じた成果をあげており、所期の目標を達成したといえる。「ColBase」との連携により公開の幅を広げることにも成果をあげた。

【中期計画記載事項】
ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	各事業の数値が例年に準じたものとなるだけに留まらず、情報の発信についても新たな試みを継続するなど、機能・サービスの強化を図っている。特に「ColBase」との連携により、新たな利用者層の獲得に向けて努力したことも評価される。今後はモノクロフィルムやガラス乾板のデジタル化など、より豊富な情報の発信につながるような事業を進める予定である。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1321D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信

【年度計画】
（４館共通)
ア　収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行う。また、４館共通所蔵品データベースを運用・公開することにより、収蔵品情報の一層の充実を図る。
イ　収蔵品の国宝・重要文化財について、5 言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（ｅ国宝）を継続して公開する。
（九州国立博物館）
ア　収蔵品に関する基本情報の公開活用に向けた情報整備を推進する。
イ　対馬宗家文書、装飾古墳、郷土人形データベース等の効率的な運用を検討し、実施する。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　河野一隆

【実績・成果】
（４館共通）
ア　収蔵品ギャラリーは28年度のリニューアル後、展示品とリンクした形で情報提供を続け、収蔵品に関する情報の普及を一層推進した。
イ　収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（ｅ国宝）を継続して公開中である。
（九州国立博物館）
ア　画像データベースを整備し、内外に公開することで利便性とサービスの向上を図った。(12月20日から公開開始)
イ
・対馬宗家文書のデータベースは公開運用しつつ、公開画像を増やし、利用者の利便性やサービスの向上に努めた。
・装飾古墳データベースでは、フランスやキプロスなどの現地調査を引き続き行い、描画エンジンをOpenLayers3へ対応させ、標準地図以外に単色地図、白地図、English、写真等、また、オーバーレイヤーの追加切り替え機能を実装した。これによってスマートフォンやタブレットなどのモバイル端末での利用を前提としたデータベースの仕様を見直し、快適に閲覧することができるようになった。
・郷土人形データベースでは、ボランティア・資料整理部による作成データを引き続き登録すると同時に、夏休み期間中にはホロレンズ（Microsoft HoloLens）を活用した3Dデータの仮想展示に係る実証実験を行い、今後の博物館展示についての可能性を検討した。
○　海外調査を含む個人研究を月１回定例で開催する研究会議で公表し、研究成果を共有するための基盤を引き続き構築した。

【補足事項】
（九州国立博物館）
・画像データベースの構築では、権利処理等に問題の無い利用可能な画像資料について整理し、画像利用に係る業務を軽減、効率化すると同時に外部公開によって、利用促進が図られるものとして、今後、大きく期待されるものである。

地図レイヤーの見直し
（装飾古墳データベース）

ホロレンズ体験ワークショップの様子

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
-	-	-	-		-	-	-	-

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	29年度は、28年度に引き続き装飾古墳、郷土人形ともにデータベースを拡充・充実させつつ、公開した。特にモバイル端末の普及が著しいことから、装飾古墳データベースの構造を見直し、モバイル対応として、郷土人形データベースではホロレンズ（Microsoft HoloLens）を活用した新たな展示の実験を試みた。対馬宗家文書データベースでは、データを一元的に管理する作業を進めた。

【中期計画記載事項】
ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　Ｂ	登録する画像・映像などのコンテンツの充実・拡充を図り、中期計画の2年目としての実績を着実に上げつつある。30年度以降は、研究や展示、収蔵品の活用促進などに本データベース群がますます活用されるよう、内外への周知に努めたい。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1322A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　2)資料の収集と公開

【年度計画】
（東京国立博物館）
ア　調査研究・教育など博物館の機能全般に関わる情報及び関係資料を収集・蓄積し、広く一般に公開する。
イ　博物館における情報資源の活用に向けて、各種資料のデータ整備を推進し、レファレンス機能とサービスの充実を図る。
ウ　資料館の機能の拡充に向け、施設・設備の見直しを含めた、利用計画を策定する。

担当部課	学芸研究部博物館情報課	事業責任者	課長　田良島哲

【実績・成果】
(東京国立博物館)
ア
・資料館における美術史等の情報・資料の公開のため、10,035 件の図書および逐次刊行物の収集・整理を行った。
・画像管理システムに画像データ 12,258 件を登録し、既存データ 2,206 件を修正して正確な情報の提供に努めた。
・洋貴重書 16 冊をデジタル撮影し、前年度撮影分までを情報アーカイブのデジタルライブラリーおよび「シーボルト旧蔵本デジタル・アーカイブ」において公開した。また、これらへの図書資料からのアクセスを容易にするため、撮影された該当図書のデータにデジタルライブラリーへのリンクを設定した。
・資料の閲覧、複写及びレファレンスサービスを継続した。（入館者 4,971 人）
・資料の保存のため、雑誌の合冊製本を行った。（洋雑誌 286 冊　和雑誌 295 冊）また、戦前刊行の当館の目録類 237 冊、明治・大正期の美術雑誌 21 冊（箱単位）および博覧会資料 547 冊について脱酸化処理を実施した。
イ
・レファレンス機能の充実のため、当館開催の展覧会カタログ、列品貸与や画像利用による納本図書等を対象として、収載されている所蔵品の列品番号調査および収載図書データへの列品番号入力を継続して実施した。
・protoDB における文献情報への入力準備として、現在までに蓄積された展覧会カタログ 174 件分のデータ 11,651 件を文献情報として提供した。また、当館開催の特別展(戦後分)の出品情報(所蔵品以外を含む)の統合を継続して実施し、館内での公開のための整備を行った。
・『東京国立博物館資料館　調べ方ガイド 4 展覧会・展覧会カタログを探す』を作成し、資料館で配布するとともに、web で公開した。
ウ
・4 月 1 日より国会図書館デジタル化資料送信サービスの提供を開始し、また 30 年度からの大学図書館等の相互複写サービスの提供開始にむけて諸準備を行った。

【補足事項】
ア
・図書資料収集・整理の内訳は、新規受入図書 5,260 冊、既存図書の遡及入力 1,441 冊、逐次刊行物の新規受入 3,334 冊である。また、前年度に続き、洋・中韓雑誌 1,972 冊および和雑誌 2,683 冊（図書館システム導入前に整理されたもの）について、製本単位での所蔵データの作成とバーコード貼付を実施し、管理の効率化を実現した。
・毎月の新着図書・雑誌・展覧カタログについて閲覧室の新着資料コーナーに一部を展示するとともに、図書・カタログについてはそれぞれ新着資料リストを作成、公開した。
イ
・特別展開催にあわせた特別展関連図書コーナーを 4 回設置し、資料館及び展示会場インフォメーションにて関連図書リストを配布した。
・『東京国立博物館ニュース』及びライブラリーニュース（OPAC）に記事を掲載し、資料館からの情報発信に努めた。
ウ
・27年度のカタログ書庫設置後の図書再配置計画の実施の最終段階として、書庫1層分類番号000-240の図書856段の再配置を4日間、2回に分けて実施した。これにより新収図書の別置を解消することができた。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
-	-	-	-		-	-	-	-

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	図書等の収集・整理・保存・公開等の業務を順調に実施した。また列品情報と文献情報の関連付けについても継続的にデータを蓄積・整備し、レファレンス機能を充実させている。

【中期計画記載事項】
美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	当館での資料の収集・整備・公開を行うとともに、国会図書館デジタル化資料送信サービスの提供の開始や相互複写サービスの実施準備などを行い、館内外へのサービスの向上について成果を上げることができた。今後も資料館を情報サービスの拠点とするため機能の充実を進めたい。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1322B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　2)資料の収集と公開

【年度計画】
（京都国立博物館）
ア　資料・画像・蔵書等の各研究支援データベースや研究情報ストレージについて整備を継続して実施し、資料の保守・管理や検索性を向上させる。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　宮川禎一

【実績・成果】
ア
・収蔵品、出品作品等の新規撮影は、8,246枚行い、データベースへ登録した。
・調査、研究、教育等に資するため、図書資料においては、新規図書2,658冊、逐次刊行物1,356冊を収集し、データベースへの登録を行った。

【補足事項】
ア
・出品作品の撮影は、特別展覧会「海北友松」（4月11日～5月21日）、特別展覧会「国宝」（10月3日～11月26日）、30年春開催予定の特別展「池大雅」を対象にして進めた。
・特集陳列における図録・チラシ・ポスターを制作のため作品の撮影を行った。
・劣化が激しいフィルム保存箱を保存に適した収納箱への移し替え作業を継続して行った。
・重要度の高いマイクロフィルムのデジタル化を行った。

29年度新規撮影（京都国立博物館蔵）

国宝「天橋立図」（部分）

国宝「病草紙」（部分）

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
-	-	-	-		-	-	-	-

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	特別展覧会「国宝」への出品の機会を捉えて撮影した国宝「天橋立図」をはじめとし、収蔵品等の新規撮影や図書資料の収集を行った。また、デジタルカメラによる撮影やフィルムのスキャニングによってデジタルデータが増加し、検索等で煩雑になっていた館内の画像検索用データベースを改修し、作業効率化を図り、年度計画に沿って計画的に行うことができた。

【中期計画記載事項】
美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	中期計画2年目として28年度に引き続き、展覧会関連の調査・研究等を中心として基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料を計画通りに蓄積することができた。また、当館収蔵の和書について他館からの申請に応じ、展覧会にて展示に供されたことから情報の発信に寄与することが出来た。30年度も、当館の展示・研究の発展に寄与する資料の収集に努める。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1322C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　2)資料の収集と公開

【年度計画】
（奈良国立博物館）
ア　図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、内外の利用者に対してサービスの充実を図る。

担当部課	学芸部	事業責任者	資料室長　宮崎幹子

【実績・成果】
（奈良国立博物館）
ア　図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、仏教美術資料研究センターでの資料公開を継続した。
　図書については内外の利用者に対してサービスの充実を図るべく、仏教美術に関連する図書資料の収集を積極的に行い、システムに登録した（和書2,446冊、漢書45冊、洋書74冊、計2,565件）。写真については、デジタル撮影（5,411件）、既存原板のデジタル化（3,017件）、システムへの登録（4,683件）を行った。

【補足事項】
　例年、仏教美術資料研究センターが協力を行ってきた「海外日本美術資料専門家（司書）の招へい・研修・交流事業」（同実行委員会主催）が 28 年度で終了したため、今年度は個別の調査協力依頼（東京都立中央図書館等）に対応した。
　また、内外の美術界の動向や最新の研究成果を掲載する雑誌『美術フォーラム21』の特集号『美術に関する知の蓄積と共有化にむけて』に「仏教美術写真の蓄積と公開－奈良国立博物館仏教美術資料研究センターと近年のアーカイブズ事業を中心に」と題する論文を寄稿するなど、仏教美術資料研究センターの活動を広くアピールすることに努めた。

『美術フォーラム 21』

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
-	-	-	-		-	-	-	-

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 資料の収集・蓄積、仏教美術資料研究センターの利用者ともに例年に準じた数値をあげており、所期の目標を達成しているとみなされる。また、個別の調査で来館した専門家との意見交換で得られた情報を、今後の情報の発信に活用させる方法についても探っていきたい。

【中期計画記載事項】
　美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 数値的に当初の目標を達成しているだけにとどまらず、来訪者を受け入れたり、雑誌に寄稿するなど、情報の発信と充実に多方面から取り組んでいる。なお、近い将来、図書資料の増加に伴い保管施設の確保などの問題に対応する必要がある。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1322D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　2)資料の収集と公開

【年度計画】
（九州国立博物館）
ア　画像管理システムにおけるデータベースの充実・構築に努め、内外の利用に供することを図る。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　河野一隆

【実績・成果】
（九州国立博物館）
ア
蔵書管理
・新規に図書1,183点、雑誌678点、図録・報告書2,925点を購入または受贈し、蔵書管理システム（日本事務器製ネオシリウス）に登載した。
・蔵書のうち蔵書管理システムへの所蔵登録を継続し、29年度は35,323点（28年度は28,813点）の所蔵情報を点検・登録した。
・福岡県古賀市に別置されていた図書70,312点の整理・登録作業については、すべて完了した。

画像管理
・27年度より日本写真印刷コミュニケーションズ製文化財情報システムの一部として運用開始している画像管理システムに画像を登録し、館内外への公開を行った。
・約8,000点の画像を掲載した画像検索システムを新規に公開し、文化財画像の利用に係るサービスを向上させた。
・その結果として画像利用が飛躍的に増加し、有償件数が前年度比127%、収入額にして200%を達成することができた。

【補足事項】

蔵書管理・検索システム

画像検索システム

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
-	-	-	-		-	-	-	-

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	新規に図書1,183点、雑誌678点、図録・報告書2,925点を購入または受贈し、蔵書管理システムに登録している蔵書データの遡及整備を着実に実施した。画像管理システムは、収蔵品管理システムと連動させつつ、内容の充実を図った。特に画像検索システムを整備・公開しサービスを向上させた。その結果、画像利用が飛躍的に増加し、収益の増加につながった。

【中期計画記載事項】
美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	中期計画2年度目にあたり、当館の蔵書データ一般公開のための基盤整備（図書データの書誌・目録整備を遂行）を推進した。今後は、外部公開も見据えた蔵書整理を着実に進めていきたい。また画像管理システムは、内容の充実を図り、より使いやすいシステムとして整備を進めた。今後は画像利用を促進し、さらなる収益増につなげるために、掲載画像数を一層増やして公開を進め、利便性を高めていきたい。

【書式Ａ】　　施設名 本部事務局　　処理番号 1323-0H

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実　3)-1 広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
（機構本部）
ア　機構の概要、年報を作成する。
イ　機構本部ウェブサイトを運用し、機構に関する情報の提供を行う。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	総務企画課長　木村守平

【実績・成果】
（機構本部）
ア
・『独立行政法人国立文化財機構概要　平成29年度』（日本語版・英語版）を6月に発行し、PDF 版を機構本部ウェブサイト（http://www.nich.go.jp/）に掲載した。
・『独立行政法人国立文化財機構年報　平成28年度』を12月に発行し、PDF 版を機構本部ウェブサイトに掲載した。
イ　機構本部ウェブサイト（http://www.nich.go.jp/）の運用を継続した。掲示掲載情報の追加更新を行い、広く一般に向けた法人情報の提供を行った。
○　当機構設立10周年を記念して「国立文化財機構10周年アニバーサリーサイト」を11月30日に公開し、機構のこれまでの活動や機構の事業等を紹介した。

【補足事項】
ア
・『独立行政法人国立文化財機構概要　平成29年度』は、日本語版と英語版を別冊子に分けて作成した。（日本語版2,100部、英語版：800部。いずれもカラー28ページ。）
・『独立行政法人国立文化財機構年報　平成28年度』：200部、カラー 4ページ・モノクロ 991ページ。
イ　機構本部ウェブサイトアクセス件数：272,228件（10周年アニバーサリーサイトアクセス件数を含む）

『独立行政法人国立文化財機構概要　平成 29 年度』（日本語版・英語版）

独立行政法人国立文化財機構ウェブサイト

独立行政法人国立文化財機構アニバーサリーサイト

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
-	-	-	-		-	-	-	-

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	年度計画どおり、概要、年報を作成し、ウェブサイトの運用を行った。 また、機構設立10周年記念アニバーサリーサイトで、従来の機構に関する情報や機構のこれまでの活動や事業等を公開することによって、情報提供の拡充を図ることができた。

【中期計画記載事項】
広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画に沿って、印刷物の作成、ウェブサイトの運用による情報提供を行うことができた。30年度以降も引き続き、ロゴマークの活用、印刷物の見直しと改善、ウェブサイト等の適時適切な更新等、多方面での積極的な広報に努める。

【書式Ａ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1323-1A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実　3)-1 広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
（４館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
（東京国立博物館）
総合文化展の活性化に重点をおいた広報活動を行う。
ア　広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。
イ　「博物館でお花見を」、「博物館に初もうで」を軸とした総合文化展の広報の企画・運営を行う。
ウ　公式キャラクターを活用した広報活動を行う。

担当部課	学芸企画部広報室	事業責任者	室長　鬼頭智美

【実績・成果】
（４館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットを35,000部制作・配布した。29年度は体裁をA3二つ折とし、配布・送付の便宜また視認性を高めたデザインに改定、館内配布するとともに旅行社、メディア各社等に送付、周知を図った。
（東京国立博物館）
ア　『東京国立博物館ニュース』(隔月刊・30,000部)を作成、配布した。また、隔月でマスコミ等300件余に「定期情報」を送付、主な事業については別途プレスリリースを作成、配信会社も活用しより広く適切なメディアに対してのアプローチを行った。また各事業の特性に合わせて1,200件程度学校等にチラシ・ポスターのDM発送を行った。周知にあたってはWEBサイト、SNS(ツイッター、フェイスブック、インスタグラム)も活用した。
イ　「博物館でお花見を」、「博物館でアジアの旅」、「博物館に初もうで」および特集「呉昌碩とその時代」では、ポスター・チラシを作成、館内配布およびDM発送を行ったほか、プレスリリースをマスコミ等に発送・配信した。
ウ　広報大使として公式キャラクター「トーハクくん」「ユリノキちゃん」を活用、月1回定期的に登場して館内で来館者と触れ合うほか、博物館外でのイベントに参加、広報活動に努めた。

【補足事項】
(東京国立博物館)
ア　『東京国立博物館ニュース』は6・7月号より総合文化展を中心としてリニューアルした。
ウ　「したまちコメディ映画祭in台東」、「世界キャラクターさみっとin羽生」、「こんにちは！シャンシャンまつり」などのイベントに参加、東京国立博物館のブースを展開、館の広報に寄与した。

リニューアルした『東京国立博物館ニュース』

世界キャラクターさみっと in 羽生

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
-	-	-	-		-	-	-	-

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	計画通り定期刊行物および定期的な情報を発信、総合文化展関係でのマスコミ報道を獲得した。キャラクターについては、月に一度定期的に登場するほか、キッズデー、国際博物館の日など適正な時機に登場、イベントに参加し、来館者が博物館に親しんでいただけるよう活動した。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	中期計画どおり個々の企画、対象等を考慮し、広報印刷物・ウェブサイト・SNSなど自主媒体を活用した広報活動を展開。一般及びメディア媒体への認知度は年々着実に浸透力を高めている。今後もSNS等自主媒体により時機にかなった話題を提供し、積極的な広報活動を展開する。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1323-1B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-1広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
(４館共通)
ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
（京都国立博物館）
ア　広報・宣伝制作物の企画・製作・配布等を行う。
イ　文化大使を引き続き任命し、広報活動を行う。
ウ　公式キャラクターを活用した広報活動を行う。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　數馬厚人 企画室長　伊藤信二

【実績・成果】
（４館共通）
ア　29年度の年間スケジュールリーフレットの製作（40,000部）・配布を行った。
（京都国立博物館）
ア
・新春特集展示のポスター（2,000部）、チラシ（135,000部）の製作・配布を行った。
・上記のほか、特集展示等のポスター、チラシの製作・配布を行った。
イ　文化大使を引き続き任命し、広報活動を行った。
ウ　PR大使として、公式キャラクター「トラりん」を活用し、LINEスタンプを4月27日より販売開始する等広報活動を行った。

【補足事項】
（京都国立博物館）
ア
・新春特集展示のポスター、チラシへは、12月～30年2月に実施した特集展示「いぬづくし」、特集展示「御所文化を受け継ぐ」、特集展示「雛まつりと人形」、特別企画「豪商の蔵」の情報を掲載した。
・特集展示「京博すいぞくかん」、「留学生の日2018」、特別企画「豪商の蔵」のポスター・チラシの製作・配布を行った。
・当館ウェブサイト上の公式ツイッターを活用し、展覧会の混雑情報やイベント、展覧会情報などの情報発信に努めた。

トラりん LINE スタンプ

イ
・博物館の活動の周知とイメージアップを図り、当館が幅広い年齢層に受け入れてもらえるよう、引き続き文化大使として俳優の井浦新氏を任命した。
・竹下景子氏、藤原紀香氏が特別展覧会「海北友松」、「国宝」開会式へ登壇し、ブログ上にて展覧会の広報を行った。

新春特集展示チラシ

ウ
・トラりんのブログやツイッター、フェイスブックを活用し、展覧会や博物館の情報を発信するとともに、トラりんの着ぐるみを毎週3日（庭園開放日は1日）、1日5回館内に登場させ、来館者との記念撮影等を行うことで、親しみやすい博物館のイメージの浸透を図った。
・東京や埼玉、京都、愛媛、高知、熊本で開催された全国的なキャラクターイベント等に参加し、キャラクターを通じて幅広く博物館をPRした。特に特別展覧会「国宝」では、東京駅から京都駅まで新幹線にキャラクターが観覧ツアー参加者と同乗し、展覧会を盛り上げた。
・LINEスタンプは全40種類で、120円（税込）にて販売した。

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
-	-	-	-		-	-	-	-

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	定期刊行物の作成及び年間スケジュール、展覧会チラシの製作・配布を充分に行うことができた。また、公式キャラクターを活用し、各種イベントへ出演、LINEスタンプを販売開始するなど、当館に馴染みのない層へのＰＲが充分に行うことができた。以上のことから、年度計画を充分に達成することができた。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや（中略）近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	中期計画2年目として、広報印刷物の製作及び当館ウェブサイト上の公式ツイッターや公式キャラクターなどの自主媒体を活用し、積極的な広報を行うことができた。30年度についても自主媒体を活用し、積極的に広報を行っていきたい。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1323-1C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-1広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
(４館共通)
ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
（奈良国立博物館）
ア　広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。
イ　文化大使を引き続き任命し、広報活動を行う。
ウ　写真・映像の撮影等に場所を提供し、協力することにより博物館の認知度を高める。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　室溪浩

【実績・成果】
(４館共通)
ア　年間スケジュールリーフレットを2回発行し、配布を行った。また、ウェブサイトからのダウンロードサービスを行った。
（奈良国立博物館）
ア
・各展覧会の特性や意義に応じた広報の方針、及び印刷物の部数を議論する広報戦略委員会を4回実施した。
・平常展の夜間開館をPRするためのチラシを作製し、近隣の宿泊施設や観光案内所等に配布をした。
・特別展「源信」において、小学生の子どもを対象に「地獄・極楽すごろく」を作製・配布した。
イ　笑い飯哲夫氏（よしもとクリエイティブ・エージェンシー）を文化大使に任命し、広報活動の一環として30年2月4日に「奈良国立博物館文化大使　笑い飯哲夫のおもしろ仏教講座」を開催したところ、173名の参加があった。
ウ　当館の認知度を高めるために、テレビ番組「今夜も生でさだまさし」（ＮＨＫ総合）の撮影場所として、仏教美術資料研究センター関野ホールを提供した。

【補足事項】
（奈良国立博物館）
ア
・源信展において、当館所属の国宝「辟邪絵」をモデルにしたキャラクターを使い、小学生向けのすごろくを作製、配布し、展覧会への興味を喚起した。
・平常展の夜間開館を広報するためにチラシの作製、配布を行った。

「地獄・極楽すごろく」

「夜間開館チラシ」

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
-	-	-	-		-	-	-	-

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	28年度に引き続き、笑い飯哲夫氏を文化大使に任命し広報活動を行うなど、博物館の情報を発信することができた。また、29年度新たに平常展の夜間開館チラシを作製し、広報に努めた。なお、当館の認知度を高めるため、メディアに対して、撮影場所として当館敷地を8件提供した。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや（中略）近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	中期計画の通り個々の企画の目的、内容等を踏まえた各種広報活動を計画的に実施することができた。特に、外国人観光客の取り込みを図るために、5ヵ国語（日英仏中韓）の常設展チラシを観光案内所等で配布し、また、展覧会毎に関西国際空港でデジタルサイネージ広告の掲出を行った。今後は、更に広報・宣伝制作物の計画的な作成を図る。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1323-1D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-1 広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
(４館共通)
ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
（九州国立博物館）
ア　特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作する。
イ　現在及び過去や将来の展示リストを検索・紹介し、展示情報を情報発信するためのウェブデータベースの整備を継続する。
ウ　ポスター・チラシ・ウェブコンテンツを活用し、文化交流展示室からの積極的な情報発信を図る。
エ　アンテナショップ「九州国立博物館ミュージアムショップ参道」での情報発信を継続する。

担当部課	学芸部企画課 広報課	事業責任者	課長（兼学芸部長）　小泉惠英 課長　田中正一

【実績・成果】
（４館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行った。(16,700 部)
（九州国立博物館）
ア　特別展の実施に伴い、担当職員によるテレビ、ラジオ番組への出演や、地元の新聞やフリーマガジン等への展覧会内容の掲載を行うなど、マスコミによる広報・宣伝を行った。
イ　ウェブデータベースの整備を継続し、当館ウェブページから詳細な展示品情報を提供した。
ウ　外国人観光客へ向け、当館ウェブページ上で中国語での展示案内を行った。
　ポスター・チラシ・ウェブコンテンツのほか、参道フラッグやアンテナショップの日除け幕等を活用し、文化交流展示室からの積極的な情報発信を図った。
エ　アンテナショップ入り口に特別展バナーを設置し、太宰府天満宮参道客への展覧会PRを図った。

【補足事項】
（九州国立博物館）
ア・参道フラッグの設置など太宰府観光協会と連携した広報活動を実施した。
　・商工団体へ「展示・イベント案内ちらし」を毎月、季刊情報誌『アジアージュ』を年4回送付し、会員等への周知を依頼した。

アンテナショップでの日除け幕の
活用とフラッグ掲出の様子

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
-	-	-	-		-	-	-	-

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 リーフレット、ポスター・チラシなどの制作や活用を行うほか、展示替えの情報や、敷地内の紅葉や季節の花などの自然環境の細かな情報等をSNS（ツイッター）によって発信することで、来館者の関心を高めるよう努めた。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや（中略）近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 中期計画のとおり、企画の目的や内容等を考慮し、多様なメディアを用いて幅広い広報を実施することができた。また、中国語での展示案内を動画で配信するなど、近年急増しているアジアからの訪日観光客に向けた広報も行った。今後も様々な媒体を通じた広報を戦略的に実施していきたい。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1323-2A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実　3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動

【年度計画】
（4 館共通）
ア　マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
（東京国立博物館）
ア　報道発表会、内覧会、懇談会等を通じ、主要メディアの文化担当記者をはじめとしたマスコミとの連携を強化する。
イ　上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。

担当部課	総務部総務課 学芸企画部広報室	事業責任者	課長　竹之内勝典 室長　鬼頭智美

【実績・成果】
（４館共通）
ア　マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開した。
（東京国立博物館）
ア　特別展・特集展示および教育事業についてマスコミ向けに情報を送付するとともに、記者発表会3回報道内覧会6回開催した。
イ　上野「文化の杜」新構想実行委員会に加盟し先導的な役割を果たすとともに、「TOKYO数寄フェス2017」やコンサートを開催した。また、夜間イベントや託児室の開放など、地域との連携交流事業等を実施した。

【補足事項】
（4館共通）
ア　成田国際空港会社・スリーエム ジャパン株式会社と連携し、成田国際空港第１ターミナルに当館収蔵品画像を使った壁面・天井装飾を実施、当館の広報に寄与した。
（東京国立博物館）
ア　特別展に加え、親と子のギャラリー「びょうぶとあそぶ」(7月3日)においても報道内覧会を実施するとともにプレスリリースを発信、新聞主要紙・美術系番組制作者等に適時性を持って情報を提供し新聞・テレビなどで紹介された。

成田国際空港第１ターミナル壁面装飾

「びょうぶとあそぶ」報道内覧会

イ　「TOKYO数寄フェス2017」（11月10日～19日）のうち、本館および表慶館のライトアップ「照明探偵団」や芸大生による邦楽コンサートを館内で実施。また、アクセシビリティ向上事業として、イベント期間中当館の託児施設をイベント来場者に無料開放した。イベント全体の延べ参加者数は約770,000人であった。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
-	-	-	-		-	-	-	-

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 特別展の記者発表会や報道内覧会には毎回150名～200名程度の記者が出席、各展覧会の広報を効果的に行うことができた。また、親と子のギャラリー「びょうぶとあそぶ」では、総合文化展内の企画であったが、多くの報道を得た。 上野「文化の杜」新構想実行委員会においても各施設と連携して効果的な事業を実施するとともに、連携した広報活動によって相乗的な周知を図った。

【中期計画記載事項】
（略）広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画どおり広報印刷物・動画サイトや新規ツールも含めたSNS運営などの実施により、一般及びメディア媒体への認知度は年々着実に浸透力を高めている。今後も自主媒体により時機にかなった話題を提供し、積極的な広報活動を展開する。 上野「文化の杜」新構想実行委員会によるホームページの作成や広報活動への先導的な役割を果たすなど、地域と連携した積極的な広報を行った。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1323-2B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-2マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動

【年度計画】
（４館共通）
ア　マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
（京都国立博物館）
ア　地域等が主催する各種の委員会に参加・連携し、広報活動を展開する。
イ　京都市内4美術館・博物館（京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都文化博物館、京都市美術館）で連携し、共通の展覧会情報パンフレットを制作・配布する。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　數馬厚人 企画室長　伊藤信二

【実績・成果】
（４館共通）
ア
・特別展覧会「国宝」においては29年6月5日にＮＨＫ京都放送局にて、開幕120日前カウントダウンイベント及びトークショーを行い、8月7日に国宝展出品作品の「黄不動」曼殊院蔵を修理した際に得られた知見に関する記者発表を行った。
・特別展覧会「国宝」の開催にあわせて、京都市交通局の100号系統のバス1台を国宝展出品作品をモチーフとしたラッピングバスを製作し、広報活動を行った。
・30年度開催予定の特別展の記者発表を11月22日（於：東京）、12月18日（於：京都）に行った。
（京都国立博物館）
ア　周辺寺社及び商店街等で構成される東山南部地域活性化委員会に参加し、10月28日～29日に開催された同委員会主催の「第4回太閤祭り」（於：豊国神社）に協力した。
イ　京都市内4美術館・博物館で組織する「京都市内4館連携協力協議会」での連携協力として、合同パンフレットを作成し、4館をめぐるスタンプラリーを実施した。
○　地域連携の一環として、京都水族館連携企画　特集展示「京博すいぞくかん―どんなおさかないるのかな？」（7月25日～9月3日）を開催し、京都水族館でも当館の展覧事業等の広報を充分に行うことができた。

【補足事項】
（４館共通）
ア
・ラッピングバスのモチーフは「風神雷神図屏風」建仁寺蔵、「桜図壁貼付」智積院蔵、当館公式キャラクター「トラりん」であり、当館のＰＲのみならず、近隣の社寺の名品のＰＲを行うことができた。
・記者発表は合わせて8回行った。
（京都国立博物館）
○　京都水族館との連携内容は以下のとおり
・京都水族館長によるギャラリートークを実施。(4回)
・京都水族館にて貝合わせのワークショップを実施。(2回)
・京都水族館にて水谷研究員と京都水族館長によるトークショーを実施。(1回)
・展示作品のうち21件へ、展示作品のモチーフとなっている水の生物の解説を併記。解説の執筆者は京都水族館長。
・当館の展示作品のモチーフとなっている水の生物のうち6件を、京都水族館にて実際の生物とパネル解説をあわせた展示を実施。また、展示作品のモチーフとなっている水の生物を描いた絵を京都水族館へ応募する絵画コンテストを実施。

ラッピングバス

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
-	-	-	-		-	-	-	-

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 記者発表の実施や、ラッピングバスの走行など、マスコミ媒体や地域と連携した広報活動を充分に実施できた。また、29年度は特に京都水族館との連携事業を筆頭に近隣施設や周辺地域との連携強化による広報活動を行い、年度計画を充分に達成することができた。

【中期計画記載事項】
（略）広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや（中略）近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 中期計画2年目として、京都水族館などの近隣施設との連携強化による積極的な広報活動を充分に行うことができた。引続き近隣施設と連携し、京都という立地を生かした広報を展開していきたい。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1323-2C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-2マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動

【年度計画】
（４館共通）
ア　マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
（奈良国立博物館）
ア　近隣社寺・博物館等との連携により、集客増に繋がる広報活動を展開する。
イ　展覧会、博物館活動への理解・促進を図るため、マスコミへの情報提供を行うとともに取材を積極的に受け入れる。
ウ　地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動の展開を図る。
エ　近隣社寺等において展覧会チラシの配布など広報協力を依頼する。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　室溪浩

【実績・成果】
（４館共通）
ア　特別展においては、主催者である新聞社と連携し積極的に紙面広告を掲載することで展覧会の広報を行った。また、公共交通機関とタイアップした社内吊り広告や駅貼ポスターの掲出や、地下鉄駅構内の有料広告スペースへのポスターの掲出により展覧会に関する情報発信を行った。
（奈良国立博物館）
ア　奈良トライアングルミュージアムズ(奈良国立博物館・奈良県立美術館・入江泰吉記念奈良市写真美術館)として、イベントを実施する等広報活動を行った。また、大阪市立美術館や三井記念美術館と相互割引を実施して特別展の集客増を図った。
イ　マスコミ向けの内覧会を、特別展で 3 回、特別陳列で 2 回、その他で 1 回開催した。また、個別の報道機関からの取材依頼にも可能な限り応じた。
ウ　一般財団法人奈良県ビジターズビューローと連携して、近隣コンベンション施設で開催された学術学会の参加者に対して、学会終了後の懇親会の一環として、「講堂での解説付きなら仏像館の団体観覧」を実施した。
エ　周辺関係社寺等と連携し、特別展等の割引特典付きチラシ配布を行った。

【補足事項】
（奈良国立博物館）
エ
・冬季の集客を図るため割引券を作成し、観光案内所及び市内の宿泊施設に配布した。
・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」について、期間限定の無料観覧券（※名品展も無料）を、春日大社において配布し、おん祭展の広報と館の認知度アップに繋げた。
・特別陳列「お水取り」について、期間限定の無料観覧券（※名品展も無料）を、東大寺において配布し、お水取り展の広報と館の認知度アップに繋げた。

「おん祭と春日信仰の美術」無料観覧券

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
-	-	-	-		-	-	-	-

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	特別展においては主催者であるマスメディアと協力して情報発信に努めた。また、公共交通機関とタイアップしての広報活動も行うことができた。更に、観光団体や旅行会社と連携して夜間開館等の広報を行った結果、夜間開館時の団体観覧や閉館後の貸切観覧の実施に繋がり、夜間開館時の集客に努めることができた。

【中期計画記載事項】
（略）広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや（中略）近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	自主媒体を活用した情報発信、公共交通機関とタイアップした広告の掲出、近隣施設と連携した特別展等の割引特典付きチラシの配布等、中期計画どおり順調に広報活動ができた。今後は、訪日外国人観光客の誘客を図るために外国語での広報活動を充実させるとともに、近隣の観光団体や商店街との連携を強化して地域密着型の広報活動を展開していく。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1323-2D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-2マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動

【年度計画】
（４館共通）
ア　マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
（九州国立博物館）
ア　地域の自治体・商工団体・観光団体・公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
イ　九州観光推進機構などを通じた海外への広報・営業活動を展開する。
ウ　近隣地域の諸団体や支援団体等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。

担当部課	広報課 総務課	事業責任者	課長　田中正一 課長　菅原秀倫

【実績・成果】
（４館共通）
ア　マスコミ各社を対象とする懇談会を実施した。
（九州国立博物館）
ア
・ポスター、チラシ、「展示・イベントスケジュール」、参道フラッグの設置など太宰府観光協会と連携した広報活動を実施した。
・商工団体へ「展示・イベントスケジュール」、季刊情報誌『アジアージュ』を送付し、会員等への周知を依頼した。
イ
・福岡県が運営するポップカルチャー配信サイト「アジアンビート」に博物館情報を掲載した。
・九州観光連盟が主催するアジア各地（釜山、台湾、香港、フィリピン）での旅行会社を対象としたインバウンドイベントで当館のチラシを配布した。
ウ
・古都太宰府ナイトエリア創出委員会や九州国立博物館を愛する会との地域連携イベントを実施し、広報活動の充実を図った。

【補足事項】

地域連携イベント①
国東岩戸寺修正鬼会（9 月 30 日）

地域連携イベント②
「夜の九博ファンタジア」（12 月 9 日、16 日）

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
-	-	-	-		-	-	-	-

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 28年度に引き続き、ポスター・チラシなどの制作や活用を行ったほか、29年度から開始した夜間開館に合わせ、古都太宰府ナイトエリア創出委員会によるイベントを実施した。近隣地域の諸団体と連携したイベントを実施したことで、夜間開館の周知を図ることができた。

【中期計画記載事項】
（略）広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや（中略）近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 28年度に引き続き、中期計画の通り、広報印刷物やウェブサイト等を活用し、近隣施設や団体と協力して広報を実施することができた。29年度からは夜間開館を開始したことで、近隣地域の諸団体と連携した新たなイベントを打ち出すことができた。30年度以降も諸団体と連携しながら積極的に広報を行いたい。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1323-3A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実　3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】
（４館共通）
ア　ウェブサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。
イ　メールマガジンを配信する。
（東京国立博物館）
ア　『東京国立博物館ニュース』の編集・発行・配布を行う。（年 6 回）
イ　ウェブサイトでは、ブログや投票などの博物館の顔が見えるコンテンツ及びユーザ参加型のコンテンツを継続して発信する。
ウ　SNS（ツイッター、フェイスブック、インスタグラムを含む）を活用した情報発信を継続して行う。

担当部課	学芸企画部博物館情報課 学芸企画部広報室	事業責任者	課長　田良島哲 室長　鬼頭智美

【実績・成果】
（４館共通）
ア　ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。各国語サイト冒頭にその日の開館情報が出るようにするなどより来館者にわかりやすくなるよう改訂した。
イ　メールマガジンを配信した（29回）。
（東京国立博物館）
ア　『東京国立博物館ニュース』を隔月（年6回）で各30,000部を制作、配布・送付した。
イ　ブログ70エントリー、投票6回により、展示・催しものやキャラクターの活動について紹介し、博物館に親しんでもらえるよう努めた。
ウ　SNS（ツイッター、フェイスブック、インスタグラム等）により適時性のある情報を発信し、利用者から好意的な反応を多く得た。

【補足事項】
ウ　ツイッター：フォロワー58,898件(27年度50,141件)、フェイスブック：いいね！19,292件（27年度10,331件）。27年度より着実に数を伸ばしている。また、8月30日開始以来Instagramではフォロワー904件を獲得し、来年はさらに多くのフォロワー獲得が期待される。

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化※1･2		25	26	27	28
ウェブサイトのアクセス件数※1	7,014,006件	5,380,118件	A		①	2,898,885	4,248,437	6,724,460	6,433,867
					②	3,783,745	4,929,191	7,427,419	

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 目標とするアクセス数・フォロワー数を確保できている。 今後は特にツイッター、インスタグラムのフォロワー数を増やすとともに、ユーザーによる投票など双方向でのコミュニケーションツールとして若年層への効果的なアプローチを図りたい。

【中期計画記載事項】
（略）広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、（中略）等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 『東京国立博物館ニュース』は計画通り発行、配布している。現状は外部への送付および館内配布分の部数が不足しているため、観光案内所やホテル等へ今後より積極的に配布し、展示広報とともに来館者誘致につなげたい。

※1　28,29 年度実績は、本体サイト及び研究情報アーカイブズのアクセス件数。
※2　上段①の数値は、本体サイトのみのアクセス件数。下段②の数値は、本体サイト及び研究情報アーカイブズのアクセス件数。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1323-3B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-3広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】
（４館共通）
ア　ウェブサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。
イ　メールマガジンを配信する。
（京都国立博物館）
ア　『京都国立博物館だより』、『Newsletter』（英文）の編集・発行・配布を行う。（年４回）
イ　博物館ディクショナリーを発行し、新刊をメールマガジンにて配信する。
ウ　収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開する。
エ　SNS（ツイッター）による情報発信を継続して行う。
オ　開館120周年記念事業をウェブサイトにて公開する。

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　伊藤信二

【実績・成果】
（４館共通）
ア　ウェブサイトアクセス件数は5,788,678件であり目標値を上回った。
イ　メールマガジンを12回配信した。（133～144号）
（京都国立博物館）
ア　『京都国立博物館だより』（194～197号）、『Newsletter』(133号～136号)の発行を行った。
イ　博物館ディクショナリー(198～207号)を発行し、新刊をメールマガジンにて配信した。
ウ　館蔵品・寄託品の貸与情報をウェブサイトにて公開した。
エ　当館公式ツイッター、トラりんツイッター、トラりんフェイスブックにて情報発信を行った。
オ　開館120周年事業を専用ページにて公開した。
○　中国語(簡体字、繁体字)、韓国語ウェブサイトを12月28日より公開した。

【補足事項】
（４館共通）
ア　ウェブサイトトップページにて夜間開館の情報を目立たせることや講座・イベントページのレイアウトを変更することなど、わかりやすい情報発信に努めた。
○　中国語（簡体字、繁体字）、韓国語ウェブサイトでは直近の展覧会情報や入館料等の基本情報を掲載。

日本語ウェブサイトトップページ

中国語（簡体字）ウェブサイトトップページ

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
ウェブサイトのアクセス件数	5,788,678件	2,274,464件	A		1,562,480	2,964,705	3,172,381	3,334,335

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	（判定根拠、課題と対応） ウェブサイトアクセス件数が目標値を達成していることやウェブサイトの定期的な更新、メールマガジンの配信、SNSを活用した情報発信などに加え、適宜ウェブサイトページのレイアウト変更を行い、年度計画は充分に達成することができた。

【中期計画記載事項】
（略）広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、（中略）等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 ウェブサイトアクセス件数は目標値を達成し、時期的なニーズに応じるため中国語(簡体字、繁体字)、韓国語のウェブサイトを公開するなど、中期計画2年目として順調に進捗することができた。今後も適宜ウェブサイトの改善を行い、アクセス件数の向上を図っていきたい。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1323-3C

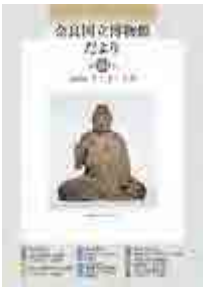
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-3広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】
（４館共通）
ア　ウェブサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。
イ　メールマガジンを配信する。
（奈良国立博物館）
ア　特別展及び名品展の情報を掲載した『奈良国立博物館だより』の編集・発行・配布を行う。（年 4 回）
イ　ウェブサイトのほか、メールマガジン、SNS（ツイッター）による情報発信を行う。
ウ　季刊誌『奈良国立博物館だより』の PDF 版をウェブサイトに掲載する。
エ　英語による展覧会チラシを作成し、外国人観光客誘致のための情報発信を行う。

担当部課	学芸部	事業責任者	情報サービス室長　岩井共二

【実績・成果】
（４館共通）
ア　特別展や公開講座の企画ごとに、また展示替えごとにウェブサイトを更新し、最新の情報提供を行った。
イ　特別展・名品展やイベント情報など、館の活動に関する情報をメールマガジン（毎月 1 回計 12 回）で約 7000 人に配信。
（奈良国立博物館）
ア　名品展や特別展の紹介に加え、展覧会情報、イベント情報等を掲載した季刊誌『奈良国立博物館だより』の編集・発行・配布を行った。（年 4 回）
イ　名品展や特別展の紹介に加え、イベント情報等をウェブサイトに掲載。さらに SNS（ツイッター）でフォロワー約 15,000 人に発信し、より迅速かつ効率的な情報発信を行った。
ウ　季刊誌『奈良国立博物館だより』の PDF 版をウェブサイトに掲載した。
エ　特別展、正倉院展、なら仏像館について、外国語チラシを作成し、外国人観光客への情報発信を行った。

【補足事項】
（奈良国立博物館）
ア　『奈良国立博物館だより』は館内にて無料配布のほか、希望者には送付を行った。
イ　公式ツイッターのフォロワー数は、29年度中に15,000件を超えており、28年度から3,000件ほど増加となった。



奈良博だより

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
ウェブサイトのアクセス件数	1,385,404 件	953,946件	S		893,553	1,196,669	1,112,057	1,167,926

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ａ	28年度に引き続き、ウェブサイト及び広報刊行物を通じて広く情報提供を行うことができた。モバイルサイトは、利用状況の低さから閉鎖となったが、ツイッターフォロワーは昨年の1.2倍、ウェブサイトアクセス件数についても28年度を越えた点は、当館から発信される情報に対する関心が高まった結果であり、大きな成果といえる。

【中期計画記載事項】
（略）広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、（中略）等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ａ	ウェブサイトアクセス件数は増加している。公式ツイッターによる情報提供については、迅速かつこまめな情報発信により、フォロワーが定期的に増加しており、時宜的なニーズにかなった広報として大きな効果を上げている。更に、特別展における外国人観光客の来館者も増えており、外国人への情報発信にも一定の効果が見られる。以上により、中期計画に対して大きな成果を上げていると判断する。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1323-3D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-3広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】
（４館共通）
ア　ウェブサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。
イ　メールマガジンを配信する。
（九州国立博物館）
ア　ウェブサイトで提供する博物館情報の充実を図るとともに、利用者の利便性を考慮した情報の発信に努める。
イ　『九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ』の編集・発行・配布を行う。（年４回）
ウ　太宰府市と連携し、スマートフォンに対応した文化情報発信サイトにより情報発信を行う。
エ　SNS（ツイッター）を活用した情報発信を継続して行う。

担当部課	広報課 総務課	事業責任者	課長　田中正一 課長　菅原秀倫

【実績・成果】
（４館共通）
ア　リアルタイムな展示情報の提供や、駐車場の混雑対策のため、ウェブサイト、ツイッターにて駐車場空き情報を継続して提供した。
イ
・メールマガジンを配信した（月2回）。
・メールマガジン登録数は毎月平均50人ずつ増えており、また、平均開封率が10％といわれている中、約35％と高水準を維持している。
（九州国立博物館）
ア　ウェブサイトでリアルタイムな展示情報を提供するなど、利用者の利便性を考慮した情報の発信に努めた。
イ　『九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ』の編集・発行・配布を行った。（年４回）
ウ　太宰府市と連携した文化情報発信サイトによる情報発信を行った。
エ　SNS（ツイッター）を活用した情報発信を継続して行った。また、ツイッターのフォロワーは順調に増えてきており、新たな広報ツールの効果が出ている。

【補足事項】
・メールマガジン登録数：6,281件
・ツイッターのフォロワー数：5,965人、日平均増加数：227人

ツイッターでの情報配信の様子

季刊情報誌『アジアージュ』

【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
ウェブサイトのアクセス件数	1,607,401件	1,696,500件	C		1,209,272	1,827,152	2,217,391	2,117,092

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 ツイッターにより、駐車場の満車状況をリアルタイムに案内することできた。その他、メルマガ登録数の増加及び開封率も高い状態を保っており、利用者に対するツイッターやメルマガの効果は実感できた。29年度は特別展来館者数に苦戦したことと同調してウェブサイトのアクセス件数が減少したが、30年度は人気の高い美術展の開催に伴い、アクセス件数が向上することが期待される。

【中期計画記載事項】
（略）広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、（中略）等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に記載のとおり積極的な広報活動を順調に行った。 ブログ、ツイッター等を活用し、展示情報やレストラン、ショップ等観覧環境についての情報をリアルタイムに更新するなど、広報活動を積極的に行った。